

高等人材開発事業（II）受益者調査報告（要旨）

I. 調査の概要

1. 調査の趣旨と意義

従来の留学の成果に関する研究といえば、異文化での経験を通じた価値観の変容、日本理解の増進など一般的で漠然としたものや、学位取得者数の増加や帰国後の昇進・昇給といった外的な効果などで、留学経験者の具体的な能力向上に着目したものは皆無に近かった。今回の調査では、本事業が行政官の留学であることから、行政官として求められる具体的な能力を抽出し、向上の度合いとその有用性を明らかにする（この観点から事業を評価する）とともに、そのような能力の向上に留学中のどのような活動が貢献しているかの解明を試みた。特に今回は、日本留学者とインドネシア留学者の比較が可能であり、日本留学の意味をよりよく理解することが可能となっている。

このような調査は、これまでほとんど行なわれてこなかったものであり、特に今回のように対象が特定されている（したがって向上が期待される能力が比較的特定し易い）留学事業の評価の一つの方法として今後活用されてもよからう。

2. 対象

日本及びインドネシアの大学に留学し学位を取得した者、それぞれ 493 名及び 323 名、計 816 名。

3. 主な調査内容

以下の項目に関する、留学経験者の自己評価（いずれも、「ない」、「少し」、「かなり」、「きわめて」の 4 段階評価）。①留学に対する全体的な評価、②行政官としての職務遂行上有用と思われる能力（能力の内容を「知識」のほか、「技能・思考力」、「態度」、「価値」の 4 カテゴリーに分類）、③行政官としての能力の向上、④留学中の様々な活動への参加が能力向上に貢献した度合い（「教員や大学主導による活動」、「自主的なアカデミックな活動」、「カリキュラム以外の自主的な知識・技能開発活動」、「課外活動等」）に分類）。

4. 調査の方法

郵送法による質問紙調査。

II. 主な調査結果

1. 調査票の回収状況

日本留学者、インドネシア留学者を合わせ 28.9%（前者 32.1%、後者 28.2%）。郵送法による調査の回収率は通常 30%以下といわれ、高いとはいえないが特に低いわけでもない。また、統計上も分析に大きな支障はない。

2. 主なファインディングス

（1）留学についての全体的な評価

日本留学者、インドネシア留学者ともに本事業による留学の意義を高く評価している。それは、単に能力向上の観点からだけでなく、行政官としての自信の向上や昇進への希望へも繋がっている。他方、身につけたことが実際に活用できているかどうかになると、その評価は相対的に低い（しかし絶対的評価は 3 の「かなり」以上）。派遣機関別（国家開発企画庁(BAPPENAS)、財務省(MOF)、科学技術評価応用庁(BPPT))に見ると、全体として MOF からの派遣者の評価が際だって高く、BPPT はその

逆となっている

(2) 行政官にとって有用な能力の抽出

今回の調査では、42 項目の能力が提示されたが、そのうち日本留学生、インドネシア留学生双方に有用度が高いとされた 19 項目を抽出しそれをコア能力と呼ぶこととした。ここで留意すべきは、これらの項目はほとんどが「技能・思考力」と「態度」に関するもので、「知識」に関する項目は含まれていないことである。もしこのコア能力の向上が留学の目的であるとすれば、従来の知識中心型の留学の考えを根本から変える必要があるかもしれない。

(3) 能力の向上について

同様に留学による能力の向上についても、「知識」よりも「技能・思考力」や「態度」がより大きく向上したという結果になっており、この点からも留学の目的・プログラムの内容を再検討する必要がある。上記のコア能力の向上という観点から、今回の留学事業を評価した場合でも、これら 19 項目の能力は、「きわめて向上した」と「かなり向上した」の間ぐらいに評価されており、この限りにおいて本事業は有効であったといえよう。

しかし他方、能力の有用度と向上度の間に乖離（特にインドネシア留学組に大きい）が見られることから、期待されたほど、あるいは求められているほど能力は向上しなかったのではないかとの印象も拭えない。

本調査のもうひとつの重要な結論は、日本留学がインドネシア留学に比べて概してより有効であると評価されていることである。日本留学において多くの点でインドネシア留学より能力の向上があったとされ、また日本留学で提供される様々な学習機会（講義、ゼミ、勉強会等）がインドネシア留学に比べより能力向上に貢献したと評価されている。

(4) 留学中の大学での活動と能力の向上

日本留学生、インドネシア留学生いずれのグループも、講義やゼミなどの大学が提供する活動よりも、レポート作成、文献解読など自らが直接行なうアカデミックな活動がより能力の向上に繋がったと認識している。しかし他方、大学での活動の能力向上への貢献度全体については、前者の方が後者よりほとんどの項目で有意に高く評価している。（この点でも、日本留学の効果があったといえよう。）

また向上した能力と大学での活動の貢献度の関係を見ると、様々な能力に応じて、講義やゼミなどのいわゆる主たる大学での活動だけでなく、ティーチング・アシスタントの経験や学内外での勉強会への参加、日本人や他のインドネシア人との交流、さらには日本での日常生活など様々な活動が、能力向上に関わっていることが示唆されている。

III. 今後の類似の事業実施への示唆

今後行政官等の職業人の能力向上を目的とする留学・訓練事業を借款で実施するとすれば、例えば、次のような手順や方法が考えられよう。

1. 能力向上を事業の目標として設定することについての合意

借款の借り手の側でこのような行政官等の具体的な能力向上を借款による留学事業の目的として設定することになじみのない場合も考えられ、まずこのような目標設定を行なうことに合意がなされねばならない。次は、どのような能力の向上を図るかを決定しなければならない。それは、職業分野、職務内容、それぞれの組織や国の実情等に沿って設定されるべきであって、一般的にある職業に求められるべ

き能力を外部者（あるいは評価者）が規定し、それを適用することは適当でないし、またきわめて困難である（そもそも例えば、一般的に行政官に求められる能力というものが存在するのかという問題もある）。これも、借款の提供者と受給者双方が共同で行なうべきものである。

2. 向上させるべき能力の設定方法

向上させるべき能力の設定には、明文化された職務内容やその遂行に必要な資質、組織として欠如していると感じられている能力、あるいは新たに求められるようになった能力などを基に設定する。今回の調査で19のいわゆるコア能力を抽出したので、それを基に設定作業を出発させることもできよう。

さらにより実態に即したものを抽出しようというのであれば、今回の調査ではごく小規模にしか実施できなかったが、もっと本格的に当該職業における成功者（幹部職員など）へのインデプス・インタビューを用いることもできよう。

3. ベースライン調査の実施と数値目標の設定

事前のベースライン調査として、留学予定者の能力を評価しておく必要がある。できれば、本人の自己評価のほか、客観性を確保する観点から上司その他の関係者による評価も行なわれることが望ましい。

また可能ならば、できるだけ同一の評価基準が共有できるよう、具体的な行動の観点から評価を行なうことが望ましい。さらに、この能力の事前評価は、レベルなり段階なり何らかの形で数値化された形で示されることが望ましい。しかし実際には、この作業は本格的な行政官の職務分析や能力分析を伴うものであり、時間と経費を要するものであろう。

4. 教育・訓練の受入れ機関

上記「1」～「3」のプロセスを経て、様々なタイプの能力向上事業を構想することが可能であろうが、仮に本調査で抽出した19の能力の向上を目指す事業を行なうとした場合、いくつか決定しなければならない選択肢がある。第一は、短期的な研修によりそのような能力が育成できるのか、それとも長期的な教育・訓練が必要かどうかの判断である。今回の調査結果は、前者を支持しているように見える。すなわち、再三述べているようにコア能力の大半が、「技能・思考力」や「態度」に関わるものであり、知識の習得などと違って時間を要すると考えられるからである。

第二の選択肢は、日本留学かインドネシア留学かである。これについても、留学の効果からいえば、日本留学がインドネシア留学に比べて概してより有効であることが今回の調査結果から示されており、日本留学を選択するということになるだろう。

次の選択肢は、受入れ機関ははたして大学が適切かという点である。能力向上の主眼が必ずしも知識に置かれていないのであれば、受入れ機関は大学でなくてもいいという議論もあり得る。しかし能力向上に関わる要因は、講義やゼミなどの大学の主要な教育活動以外にも、ティーチング・アシスタント、勉強会への参加、教員の研究補助等の知の伝達や創造に関わる活動や学生間の交流など、大学という環境のなかでの活動が多く、やはり大学の優位性は変わらないであろう。

5. 教育・研修プログラム

仮に上述のとおり、日本留学の目的が19項目にわたる能力の伸張であると明確に特定されるのであれば、やはりそのニーズにあった教育プログラムが提供されるべきであろう。しかし実際には、大学はごく一部を除き、人的、財政的等の問題から、学生グループのニーズに応じていくつものいわゆるテーラード型のプログラムを提供することはしていないし（すなわち、通常の修士課程や博士課程に入学させる）、また大学側にそれを求めてもその実施はなかなか困難である。

そこでより現実的には、今回の調査で大学の主要な教育活動以外に能力形成に大きな役割を果たしている可能性があると考えられた活動（ティーチング・アシスタント、教員の研究への参加・補佐、学内外での勉強会出席、学生間の交流など）を支援するプログラムを受入れ大学に作成させ、留学生の受入れ経費に上乗せしてその経費を賄うこともひとつの方策であろう。

さらに大学の教育・研修プログラムの枠外の活動である日常生活も、多岐にわたって能力向上に貢献していることが判明している。これをどう教育・研修プログラムと関連付けて活用していくかは、確かに大きな課題である。まずそのためには、日常生活のどの側面がどの能力の向上に関わっているのかを詳細に分析する必要がある。

6. モニタリング

通常世話機関が、特定の事業による留学生を数ヶ月ごとに様々な項目についてモニタリングを行なっているが、この中に学生の能力向上に関する評価を入れる。これは通常の大学の学業評価とは別に、この事業による留学生について、ベースライン調査で使用した、評価方法、評価基準に従って受入れ教員に定期的に評価してもらうものである。入学時 6 ヶ月経た段階から半年に一回の目安で行なう。これはいわば継続評価でありまた第三者による評価でもあり、事業評価の重要なデータとなるであろう。

またこのモニタリングの一環として、年に 1 回程度留学生活動調査を行ない、本事業による留学生の学内外での活動状況を把握するとともに、留学生の満足度等も併せて調査する。このデータは、単に留学生の実情把握のためだけでなく、能力の向上の要因を探るための基礎データともなる。

7. 事後調査

事業で身につけた能力の持続性を確認するため、例えば、帰国直後、2 年後、5 年後の三回にわたって事後評価を行なう。

平成 19 年 5 月

黒田則博・吉田和浩（広島大学）

インドネシア高等人材開発事業（II）特定テーマ報告書 －受益者の能力向上の観点からみた留学事業評価－

1. 背景

我が国では 1983 年のいわゆる「留学生受入れ 10 万人計画」¹以来、外国人留学生の受入れが国策として展開されてきた。そして 2003 年にはついに目標の 10 万人受入れを達成し、引き続き日本で学ぶ留学生数は伸び続けている。この留学生の拡大を支えてきた大きな柱が、文部科学省の国費留学生制度であるが、近年外務省の留学生支援無償や国際協力機構のいわゆる長期研修生受入れ、さらには国際協力銀行の留学生借款など、より発展途上国側のニーズに沿った事業が開始されるようになった。留学生借款についていえば、今回その一部が評価の対象となっている、1989 年から始まった 3 期にわたるインドネシアにおける高等人材開発事業は、途上国における人材育成ニーズを汲み取る形で実施された典型的な事例といえよう。

本事後評価の対象となった「高等人材開発事業（II）」は、「第 I 期事業に引き続きインドネシアの政府職員を対象に、日本ないしインドネシア国内において、留学及び短期研修を行うことにより、政府機関における中核となる高度な知識・技能を有する人材を育成し、もって同国の経済発展を促進することを目的とする」ものであった。本事業を含め開発援助機関が行なう留学支援事業は、文部科学省の国費留学生制度のように目的が広範かつ一般的な事業とは異なり、かなり特定された目的を持つものである。本件の場合も、インドネシアの行政官の能力向上という特定された目的を持ったものであった。

これだけ留学支援事業が広く実施されるようになると、その効果に関する関心も高まりをみせつつある。現にこれまでも、フルブライト奨学金による日本人のアメリカ留学の効果（小林ほか 1992）、日本留学による日本イメージの形成（岩尾ほか 1988、1997）、評価 PDM（Project Design Matrix）を使用したインドネシア人の日本留学の効果（佐藤 2002a、2002b、2004）など、留学の効果に関する調査研究が行なわれてこなかったわけではない（詳細は附論 1 参照）。しかし、行政官等職業人の能力の伸張を目指す留学支援事業について、具体的な能力の向上に着目して留学の効果が調査された例は皆無に近い。特に本件事業は、明確に行政官の能力向上を謳っている事業であり、当然この観点から評価が行なわれるべきである。上述のとおり今回の調査研究は、前例がほとんどないきわめて先駆的なものであり不十分な点も多々あるが、今後方法等を一層開発していけば、留学の評価に関する一つのモデルを提供するものとなり得よう。

¹ 当時約 8,000 人であった在日外国人留学生を 20 世紀末までに 10 万人にまで増加させる計画。

2. 目的

本研究では、調査対象を学位取得を目的とした日本およびインドネシアへの留学者とし、以下のことを調査することを目的とする。第一の目的は、能力向上という観点から本件「高等人材開発事業（II）」による留学の効果を測定することである。しかしこれを行なうにはまずその前提として、この事業がどのような能力の向上を目標としていたのかを明らかにする必要がある。ところが実は、本事業自体において具体的な能力が目標として設定されていないため、事後的にはあるが、今回の調査を通じ行政官に有用とされる能力を抽出する作業も行なう必要がある。これが第二の目的である。

もうひとつの今回の調査の重要な狙いは、本事業には日本とインドネシアの両大学の留学者がおり²、その比較を通じ日本留学の特徴を抽出することである。もちろん留学の国別の違いを見ようとする研究はこれまでもなかったわけではないが、留学先が主要な違い（日本かインドネシア国内か）で、他は同じ行政官という比較的同質な集団を比較できる機会を得たことはきわめて幸いであった。

最後に、大学教育の職業的なレリバンスの観点から、大学におけるどのような活動がどのような能力の向上に結びついているかを考察することである。留学生が日本の大学でどのような活動に参加し、その満足度はどうかといった研究は少なくないが、それと能力向上とを関係づける研究はあまりみられず、この点でも意義ある研究といえよう。このような情報は、能力向上という観点から留学生受入れプログラムを考える上で重要であると思われる。

3. Competency 論の留学成果測定への活用

本調査研究では、Competency の考え方を援用して行政官の能力向上に対する留学の効果を測定しようと試みているので、以下にその概要を整理しておく（詳細は附論2参照）。

この議論は、1970年代にアメリカのマクレランドらによる達成動機の研究から生まれ、成果主義や能力主義の人事管理の手法と結びついて発展してきた。日本でも企業等の人事・評価制度の見直しに伴って、近年盛んに紹介されるようになった。

現在の Competency の理論と実践においては一般に、Competency は「特定の仕事（職務）において高い業績をあげ続けている人に固有な行動特性」（高木 2004、25 頁）や「ある状況または職務で高い業績をもたらす類型化された行動特性」（太田 1999、27-28 頁）などと職務の遂行に関連づけられて定義される。Competency 論では単に目に見える特性だけが対象とされているのではなく、思考能力、価値観、意欲、信念などといった目に見えないものもその射程に入っており、むしろこのような特性こそ重要なものとされている。

一方高等教育においても、必ずしも上記の Competency とまったく同じ概念を使用しているわけではないが、類似の研究として「大学教育の職業的なレリバンス」（小方 1998）を巡

² 原則として海外留学は日本であったが、日本での履修が困難なコースについては海外でも受講した留学生もいた。しかし、ごく少数であったので、本研究ではインドネシア留学と日本留学に焦点をあてた。

一連の研究が行なわれている。このような研究は量的にはまだ多くないものの、専門職大学院の進展など、高等教育に対し専門家養成への期待と需要が高まる中、重要な研究として認知されつつある。この研究は、従来の「大学教育と雇用」（小方同上、6頁）との関係（例えば、どの分野の学生をどれだけ排出し、それが産業界の需要にマッチしているかといったいわば量的研究）ではなく、「大学教育と仕事」（小方同上、6頁）との関係（大学教育が学生にどのような能力を身につけさせ、それが企業の求めるものとマッチしているかといった質的研究）に焦点がある。

まさに本事業において行政官に必要な能力の向上を図ることは「大学教育の職業的レリバンス」の問題でもあり、これまで留学の成果を Competency の観点から測定したことはないが、これを試みることは意味あることであろう。

4. 調査手法

4-1 調査内容（資料1参照）

本件留学支援事業自体が能力についての目標設定をしていないので、この調査ではまず、Competency に関わる様々な調査などから、行政官に有用と思われる以下の42項目の能力を抽出した。質問票では調査対象者（留学者）にまず、調査対象者のプロフィール（下記（1））や留学の全体的評価（下記（2））を尋ねた後、上記42の項目について有用度を評価してもらった（下記（3））。ついでそれらの項目について、留学による向上の度合いを質問し（下記（4））、さらに、これらの能力向上に留学中のどのような活動が貢献しているかを評価してもらった（下記（5））。

上記5つのグループの調査内容を整理すると、以下のとおりである。

（1）回答者のプロフィール

- 回答者の性別・現在の年齢
- 留学直前の、学歴、所属、役職、等級・号俸等
- 事前研修、留学先・分野・期間、取得学位等
- 現在の所属、派遣前の職場での職務内容、役職、等級・号俸等

（2）留学に対する全体的な評価（最低「1」、最高「4」の四段階評価）

- 全体的な意義
- 能力向上への貢献
- 行政官としての自信向上への貢献
- 将来の昇進への希望の増大
- 全体として、留学中に身につけたことが職場復帰後活用されているか

（3）各種能力の行政官にとっての有用度評価（以下に示す能力が行政官としての職務遂行上どの程度有用か。最低「1」、最高「4」の四段階評価）

- 知識に関するもの（5項目）
 - ・社会・経済、人間、科学等についての幅広い教養

- ・インドネシアの全般的な開発課題や政策課題に関する知識
- ・職務の関連分野に関する基礎知識・理論・方法
- ・職務の関連分野に関する最新の知識・理論・方法
- ・職務の関連分野に関する実務的な知識

○技能・思考能力に関するもの（17項目）

- ・科学的な調査・分析能力
- ・論理的な思考能力
- ・情報収集・処理能力
- ・問題解決能力
- ・新たな発想や構想をする力
- ・IT活用能力
- ・コミュニケーション能力（発表能力や説明能力を含む）
- ・英語運用能力
- ・日本語運用能力
- ・国際性（国際的な観点から課題に対処できる能力）
- ・リーダーシップ
- ・対人交渉・調整能力
- ・決断力
- ・学習能力
- ・自己評価能力
- ・時間管理能力
- ・長期展望

○態度に関するもの（12項目）

- ・倫理性
- ・規律性
- ・寛容性
- ・責任感
- ・柔軟性
- ・奉仕精神・献身
- ・自信を持って仕事に取り組む態度
- ・チャレンジ精神
- ・積極性
- ・目標達成志向
- ・好奇心
- ・合意志向

○価値に関するもの（8項目）

- ・グローバル・国際的価値基準重視
- ・インドネシアの国益重視
- ・地方重視
- ・愛国心
- ・宗教心
- ・アスピレーション（志を持っていること）
- ・仕事中心主義
- ・家族優先

○その他（人脈形成への効果。日本留学生に対し4項目、インドネシア留学生に対し3項目）

（4）留学による上記能力の向上の度合い（最低「1」、最高「4」の四段階評価）

（能力の項目は上記（3）と同様）

（5）留学中の様々な活動への参加が能力向上に貢献した度合い（最低「1」、最高「4」の四段階評価）

○教員や大学主導による活動（7項目）

- ・講義
- ・ゼミナール
- ・実習・実験（フィールド調査を含む）
- ・インターンシップ
- ・教員による個別指導
- ・教員が行なう研究活動への参加・補佐
- ・授業補佐・マスター学生の指導（ティーチング・アシスタント）

○自主的なアカデミックな活動（5項目）

- ・図書館やインターネット等を通じた資料収集・検索
- ・参考文献等資料解説
- ・レポート・論文の作成
- ・学内の勉強会・研究会の組織あるいはそれへの参加
- ・学外の勉強会・研究会の組織あるいはそれへの参加

○カリキュラム以外の自主的な知識・技能開発活動（3項目）

- ・英語学習
- ・日本語学習（インドネシア留学生に対してはその他の言語学習という項目になっている）
- ・コンピュータ等ITに関する学習

○課外活動等

<日本留学者> (6項目)

- ・日本人学生との交流や共同活動
- ・インドネシア人留学生との交流や共同活動
- ・他の国の留学生との交流や共同活動
- ・地域住民との交流や共同活動
- ・日本での日常生活
- ・日本国内の旅行

<インドネシア留学者> (3項目)

- ・インドネシアの学生との交流や共同活動
- ・地域住民との交流や共同活動
- ・外国人（学生を含む）との交流や共同活動

4-2 インドネシアの行政官に有用と思われる能力の抽出プロセス

本来この作業は、単に評価の目的からだけではなく、事前にプロジェクトをデザインする一つの過程（プロジェクトの目標設定の過程）として本格的に実施されてしかるべきものであろう。その意味で、本調査自体はその予備的な作業であるといつてよかろう。今回の調査で暫定的に提示された42項目の能力は、以下のプロセスで抽出した。

Competency 論でいわば常識とされている Competency の重層的構造（太田 1999、99-104 頁、小方 2001、73 頁など）を行政官の能力にも適用するとともに、石附（1972）などが強調する留学における態度や価値変容効果をも考慮して、行政官の能力を表層から深層へ、あるいは、顕在部分から潜在部分へと、「知識」、「技能・思考能力」、「態度」、「価値」の4カテゴリーに分けることとした。

次に以下の調査等で使われている項目を参考に、インドネシアの行政官に求められているであろうと思われる能力をできるだけ幅広くリストアップした（57項目）。

- ①インドネシアの行政官の勤務評定を行なう際の8項目（忠実性、責任感、規則遵守など）（JICA 地方行政人材プロジェクト（2006））
- ②伊藤（2006）がインドネシアの行政官に対して行なった同様の調査の項目（25項目）
- ③日本労働機構（1997）が行なった社会人のための大学院教育に関する調査の項目（大学院で身につけるべきと考える能力）（33項目）
- ④三鷹市（2004）が公表している、職員に求められる資質・能力（18項目）
- ⑤OECD が提唱する、key competency (9 中カテゴリー) (ドミニク・S・ライチンほか 2006、200-224 頁)
- ⑥二宮ほか（2005）が実施した、Cross-Cultural Competency に関する調査の項目（53項目）

このように Competency 論の考え方や既存の類似調査の項目を参照しつつ作成された57項目の予備的な能力リストについて、小規模かつ簡便な予備調査を実施し最終的な能力項

目の絞り込みを行なった。質問内容は、上記 57 項目のうち、最も重要なもの 5 項目、最も重要でないもの 5 項目を選ばせるとともに、リストにないもので重要と思われる能力があれば挙げるよう求めた。対象は、広島大学のインドネシア人留学生 2 名、同大学インドネシア人客員教授 1 名、インドネシア人中・上級行政官 5 名であった。この予備調査から、重要とは考えられないと指摘された能力のほか、意味が理解しにくい項目や重複しているとされたものなどが削除され結局 42 項目となった。また新たに追加された項目は、「時間管理能力」と「長期展望」であった。

さらに、インドネシアの社会、文化、言語等の観点から、質問が誤解されることなく理解されるよう、インドネシア人の教授（広島大学客員教授）の校閲を受けるとともに、インドネシア語への翻訳についても助言を得た。

4-3 調査対象

本「高等人材開発事業（II）」により日本の大学に留学し学位を取得した者 493 名、及びインドネシアの大学に国内留学し学位を取得した者 323 名、計 816 名である。

派遣機関別、取得学位別人数は以下のとおりである。

表 1 派遣機関別、取得学位別留学者数

		BPPT	BAPPENAS	MOF	計
日本留学	学士	34	0	0	34
	修士	138	105	129	372
	博士	72	10	5	87
	計	244	115	134	493
インドネシア留学	学士	0	0	0	0
	修士	24	287	12	323
	博士	0	0	0	0
	計	24	287	12	323
総計	計	268	402	146	816

(注)(1)上記の表は、派遣された者のうち、日本、インドネシア以外で学位を取得した者 22 名、学位を取得できなかった者 10 名を含んでいない。

(2)BPPT：科学技術評価応用庁、BAPPENAS：国家開発企画庁、MOF：大蔵省（以下同じ）

4-4 調査の実施

上記対象者 816 名（日本留学者 493 名、インドネシア留学者 323 名）のうち、住所等連絡先が判明した者 709 名に主として郵便により（一部インターネット等による回答もあった）質問票を送付・回収した。2006 年 11 月末までの回収率があまりおもわしくなかったの
で、2007 年 1 月に再度、本留学事業の実施機関である BAPPENAS、BPPT 及び MOF の協力

を得て回収を行なった。この回収が終了したのは、平成 19 年 3 月中旬であった。

4-5 分析の観点（本調査で明らかにしようとする点）

（1） 留学の全体的評価

留学によって個々の能力がどのように向上したかを問う前に、まず本事業による留学が留学生自身に全体としてどのように評価されているかを明らかにする。その際、さらに詳しく、①能力向上、②行政官としての自信の高まり、及び③将来の昇進の可能性の観点からの全体的評価を行なう。また、留学の成果が実際に活用されているかどうかの観点からも評価を行なう。さらに、これらの評価が、日本留学生とインドネシア留学生との間で、そして日本留学生の中でも、派遣機関（BAPPENAS、BPPT 及び MOF）の間で異なっているかどうかを明らかにする。

（2） 各種能力の有用度評価

上述のとおり調査票に示した 42 の能力の項目は簡便な予備調査しか経ておらず、ここで改めて留学経験者（行政官）に 42 の能力の項目を評価させ、暫定的なものであれ各能力の有用度リストのようなものを作成する。その際、日本留学生とインドネシア留学生の違い、派遣機関の相違にも留意する。また、行政官にとって有用な能力は、「知識」に限定されるものではなく、「技能・思考能力」、「態度」さらには「価値」の分野に及ぶ広範なものであるとの仮説を検証する。

（3） 能力の向上度評価

留学によって、上記 42 項目の能力がどの程度向上したと評価されているかを明らかにする。特に、日本留学生とインドネシア留学生を比較することによって、能力の向上という観点から見た日本留学の特徴を明らかにする。また、派遣機関別の相違にも留意する。さらに上記（2）と同様、留学による能力の向上は、「知識」に限定されるものではなく、「技能・思考能力」、「態度」さらには「価値」の分野に及ぶ広範なものであるとの仮説を検証する。

（4） 有用性評価と能力の向上評価の比較

上記（2）と（3）の結果を比較することによって、留学によって求められている能力が十分高まったと思われるもの、あるいは逆に、能力向上へのニーズがあるにもかかわらずそれが十分達成されていないと思われるものを抽出する。

（5） 留学中の活動の能力向上への貢献度評価

留学中のどのような活動が能力向上に役立っているかを明らかにする。その際、講義やゼミなどの大学や大学教員が中心に組織する活動のみならず、レポートや論文作成、学術情報の収集などの自主的なアカデミックな活動、他の学生や地域との交流など課外活動も大きな役割を果たしているとの仮説を検証する。また上記 42 の能力それぞれの向上にとって、特にどのような活動が貢献しているかを抽出する試みを行なう。

5. 調査結果

5-1 調査票の回収状況

表2 調査票の回収率

		BPPT	BAPPENAS	MOF	計
日本留学	対象者 (人)	244	115	134	493
	回答者 (人)	59	43	43	145
	回収率 (%)	24.2	37.4	31.4	32.1
インドネシア留学	対象者 (人)	24	287	12	323
	回答者 (人)	3	87	1	91
	回収率 (%)	12.5	30.3	8.3	28.2
日本留学 及び インドネシア留学	対象者 (人)	268	402	146	816
	回答者 (人)	62	130	44	236
	回収率 (%)	23.1	32.3	30.1	28.9

上記の回収率はとても高いとはいえないが（郵送法自体の回収率は通常 30%以下といわれる）、統計的にはグループ全体の傾向を見るのに、必ずしも不十分とはいえない。この低い回収率の原因としては、各事業実施機関が帰国者の現在の状況を必ずしも把握していないこと（自身の機関から派遣した者については把握しているが、他の省庁からの派遣者についての情報がない）が最も大きい。このような状況にもかかわらず、元留学生の個人的な伝手等を通じ 709 名の連絡先を割り出し、主として郵送法により調査票の回収を行なった。これを母集団とすれば回収率は約 33%で、郵送法としては必ずしも悪い率とはいえない。

5-2 回答者のプロフィール

表3 回答者のプロフィール

	日本留学	インドネシア留学	備考
男女	男：75.9% (110人) 女：24.1% (35人)	男：70.3% (64人) 女：29.7% (27人)	
現在の年齢	最小：31歳 最大：49歳 平均：39.0歳	最小：31歳 最大：47歳 平均：38.8歳	
留学開始年齢	平均：30.7歳 BPPT：29.4歳 BAPPENAS：33.1歳 MOF：30.1歳	平均：33.2歳	

	日本留学	インドネシア留学	備 考
留学前の最終学歴	学士：80.7% (117人) 修士：10.3% (15人) 博士：0% (0人) その他：9.0% (13人)	学士：91.2% (83人) 修士：8.8% (8人) 博士：0% (0人)	「その他」には高校を含む (BBBP からの派遣者には学士課程に入学した者がいる)。
主な出身大学	ガジャマダ大学：14.5% (21人) ボゴール農科大学：9.7% (14人) バンドン工科大学：8.3% (12人) インドネシア大学：5.5% (8人)	ガジャマダ大学：18.70% (17人) ボゴール農科大学：6.6% (6人) アンダラス大学：4.4% (4人)	
主な留学先大学	広島大学：15.2% (22人) 国際大学：13.1% (19人) 名古屋大学：12.4% (18人) 横浜国立大学：7.6% (11人) 早稲田大学：6.2% (9人)	ガジャマダ大学：51.7% (47人) インドネシア大学：24.2% (22人) ボゴール農科大学：14.3% (13人)	
インドネシアでの事前研修期	平均：6ヶ月	平均：0ヶ月	
日本での事前研修期間	平均：3.5ヶ月		
取得学位	学士：0.7% (1人) 修士：78.6% (114人) 博士：19.3% (28人) その他：1.4% (2人)	修士：100% (91人)	インドネシアの大学で取得した Magister は修士として取り扱った。
教授言語	日本語：25.5% (37人) 英語：48.3% (70人) 両方：26.2% (38人)		
派遣時の等級・号俸	平均：2.48 BPPT：2.32 BAPPENAS：2.84 MOF：2.32	平均：2.48	全部で9段階に分かれており最高が⑨Ive。
昇級度	平均：1.16 BPPT：1.5 BAPPENAS：0.97 MOF：1.05	平均：1.07	

5-3 留学の全体的評価 (資料2参照)

図1及び資料3の表「I」は、いくつかの観点から本事業による留学経験を全体的に評価してもらった結果である。①全体的に見て意義があったかどうか、②能力の向上への貢献、③行政官としての自信の向上への貢献、④昇進の希望を高めたかどうか、そして⑤身につ

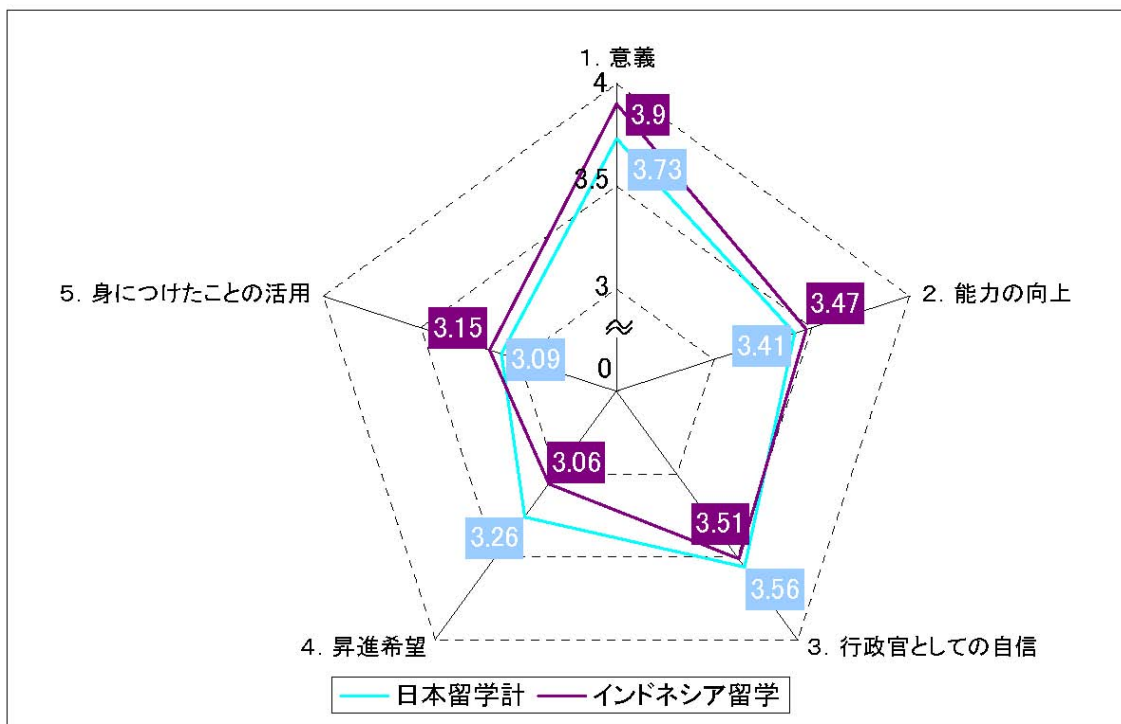
いたことが今の職場で現に活用されているかどうか³、の5つである。各項目の評価は、最高4、最低1の4段階で行ない、図及び表に示されている数値はその平均である。

主なファインディングは以下のとおりである。

(1) 留学の全体的評価はきわめて高い

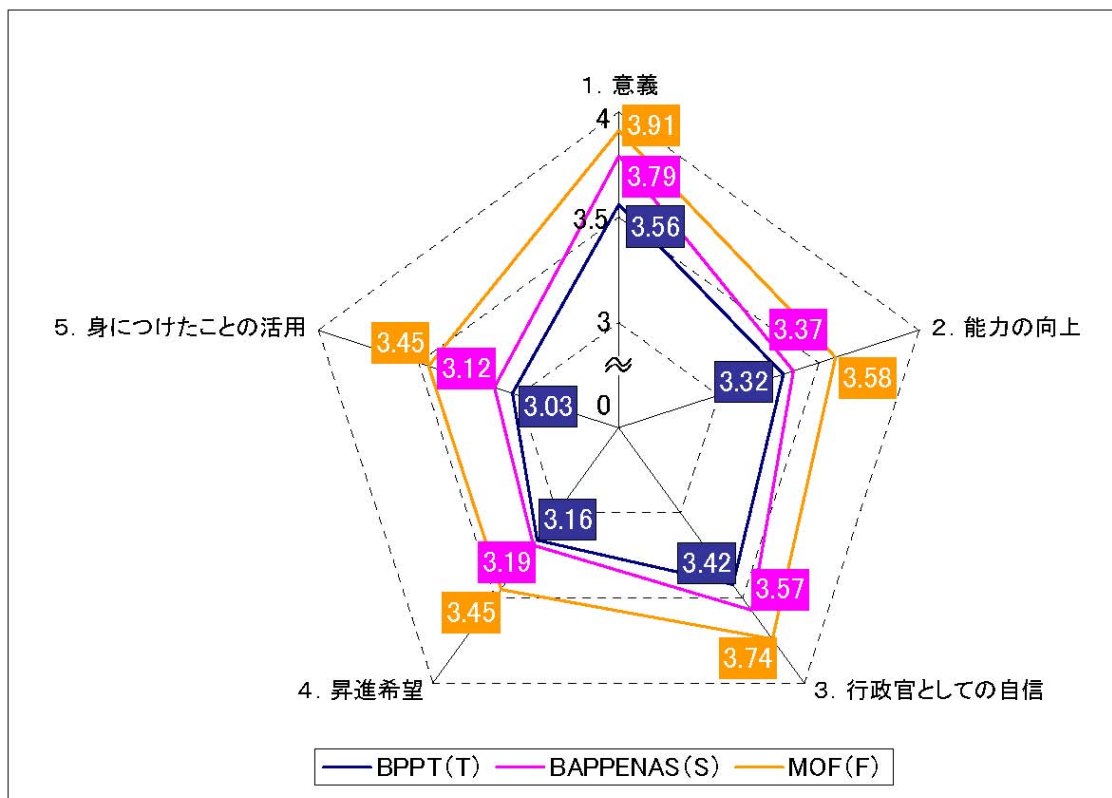
図1-1に明らかなように、日本留学生、インドネシア留学生ともに本事業による留学の意義をきわめて高く評価している。また、図1-2をみると、派遣機関別に見ても、高く評価をしていると言える。

図1-1 留学国別に見た留学の全体的評価



³ ここでは、ある能力が実際に活用されているかどうかと、能力の有用性とは一応別の概念として区別している。前者はまさに現に使われているかどうかであり、後者は有用であると認識されているが、現実の様々な諸条件あるいは部署により、実際に使われている場合もあれば、そうでない場合もあり得る。

図 1-2 派遣機関別に見た留学の全体的評価



(2) 留学は行政官としての自信を高める効果もある

留学は能力の向上の観点から高く評価されているだけでなく、むしろそれ以上に行政官としての自信の向上にも繋がっている。ただし、行政官としての自信を深めたことは、留学の経験に基づくだけでなく、留学者として選ばれたことそれ自体による効果もあるかもしれないことに留意する必要がある。それよりは程度が下がるが、昇進への希望を高める意味合いもある。この点では、日本への留学者として選ばれることが、よりその希望を高めているようである。

(3) 身につけた能力の活用は相対的に低い評価

留学が能力の高まりや、自信向上に繋がっている反面、身につけたことを実際に活用しているかどうかになると、その評価は相対的に低い。能力を活用するには、上司、同僚の理解など職場環境その他の様々な要因が関わってくるものであり、必ずしも十分に能力が活用し切れていない状況が窺える。

(4) 派遣機関により留学の評価に大きな差

日本留学についての全体的な評価を、派遣機関別 (BPPT、BAPPENAS、MOF) に見ると、図に示すように、全体として MOF からの派遣者の評価が際だって高く、BPPT はその逆となっている。それぞれの機関における、本留学の位置づけあるいは意義付けの違いが反映しているのかもしれない。

5-4 有用性の評価（資料2参照）

資料2の表「II」は、42項目の能力について、それぞれの職務遂行上の有用度を、「1 有用でない」、「2 少し有用」、「3 かなり有用」、「4 きわめて有用」の4段階で評価してもらい、その平均値を示したものである。また下記表4は、日本留学生及びインドネシア留学生別に、評価の高いものから並べ直したものである。これらからの主な考察は以下のとおりである。

（1）ほとんどの能力についてその有用性を高く評価

日本及びインドネシア留学生いずれにおいても、調査票に示された能力の有用性の評価は高い。「かなり有用」（ポイント3）以下の項目は、日本留学生では、「地方重視」と「日本語運用能力」、インドネシア組では「国際性」と「日本語運用能力」のみである。

（2）「知識」よりも「技能・思考能力」や「態度」がより重要

有用性の評価を「知識」、「技能・思考能力」、「態度」、「価値」の4カテゴリーごとにみると、図2-1のとおり、行政官としての職務遂行上有用な能力は、日本留学生、インドネシア留学生のいずれを問わず平均して、「技能・思考能力」⁴に関わる能力が最も有用とされ、続いて「態度」に関わるものであり、「知識」や「価値」に関わる項目は相対的にいって高く評価されていない。

派遣機関別に見ても（図2-2）同様に、いずれの機関からの派遣者も、平均して「技能・思考能力」や「態度」に係る能力の方が、「知識」や「価値」に関わるものより有用であるとしている。また、MOF派遣者がいずれの項目においても有用性の評価は際だって高い。

（3）日本留学生とインドネシア留学生とでは、有用度評価に若干の違い

資料2の表IIに示すように、全体として、日本留学組とインドネシア留学組との間で、有用な能力に関する認識に大きな差は見られないが、両者に統計的に有意な差が見られる項目を以下の表5にまとめてみた。「国際性」や「英語力」あるいは、「グローバルな」価値観は、外国に出てみてその有用性や必要性を感じるようである。他方、インドネシア留学生は、インドネシアに関する知識や価値の重要性を再認識するようである。また、日本留学生に、「規律性」が行政官にとって有用な能力であるとする者が有意に多いことも興味深い。

⁴ やや特異なスコアを示す「英語運用能力」と「日本語運用能力」は、カテゴリー別の平均からは除いて考察。以下、カテゴリー別の比較では同様の処理をした。

表4 有用性の評価（評価の高いもの順）

日本留学		インドネシア留学		知識 技能・思考力 態度 価値
			積極性 3.87	
			倫理性 3.86	
			論理的な思考能力 3.78	
	3.8			
コミュニケーション能力 3.74				
論理的な思考能力 3.73				
規律性 3.73				
問題解決能力 3.72				
責任感 3.7				
自信を持って仕事に取り組む態度 3.7				
科学的な調査・分析能力 3.69		問題解決能力 3.69		
アスピレーション 3.68		責任感 3.65		
チャレンジ精神 3.65				
情報収集・処理能力 3.64				
倫理性 3.64				
長期展望 3.63		コミュニケーション能力 3.63		
		決断力 3.63		
新たな発想や構想をする力 3.62				
目標達成志向 3.62				
IT活用能力 3.61				
学習能力 3.61				
		リーダーシップ 3.6		
		自信を持って仕事に取り組む態度 3.6		
	3.6			
技能・思考力 3.59				
決断力 3.58				
態度 3.57				
積極性 3.57				
		幅広い教養 3.57		
		長期展望 3.57		
		情報収集・処理能力 3.56		
		IT活用能力 3.56		
		目標達成志向 3.56		
		アスピレーション 3.55		
		科学的な調査・分析能力 3.54		
		チャレンジ精神 3.54		
		規律性 3.53		
		好奇心 3.53		
		技能・思考力 3.52		
		対人交渉・調整力 3.51		
		時間管理能力 3.51		
		宗教心 3.49		
		態度 3.48		
		学習能力 3.48		
		インドネシアの開発等 3.45		
		新たな発想や構想をする力 3.45		
		愛国心 3.45		
		職務関連分野の実務的な知識 3.44		
		知識 3.43		
		仕事中心主義 3.42		
		価値 3.37		
		自己評価能力 3.37		
		寛容性 3.37		
		インドネシアの国益重視 3.37		
		奉仕精神・献身 3.35		
		職務関連分野の基礎的知識・理論・方法 3.34		
		職務関連分野の最新の知識・理論・方法 3.32		
		合意志向 3.32		
		柔軟性 3.31		
		地方重視 3.31		
		家族中心主義 3.3		
	3.3			
家族中心主義 3.25				
インドネシアの開発等 3.18				
		グローバル・国際的基準重視 3.07		
		英語運用能力 3.03		
		国際性 2.77		
		日本語運用能力 2.06		
地方重視 2.97				
日本語運用能力 2.72				

図 2-1 留学国別に見たカテゴリ別の有用性評価

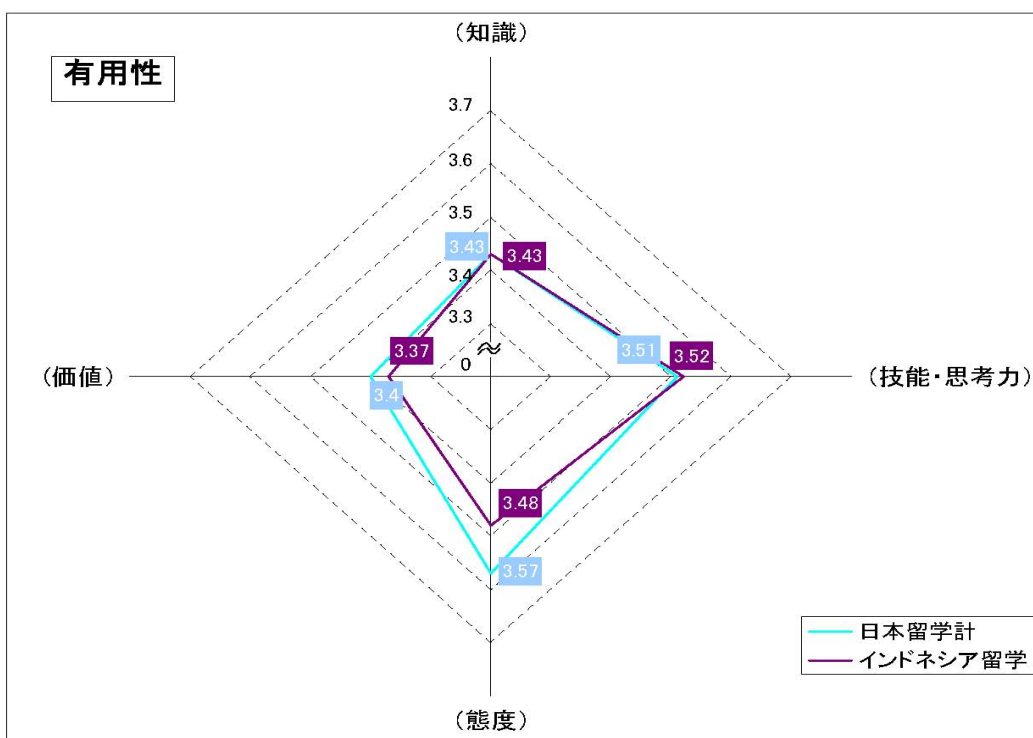


図 2-2 派遣機関別に見たカテゴリ別の有用性評価

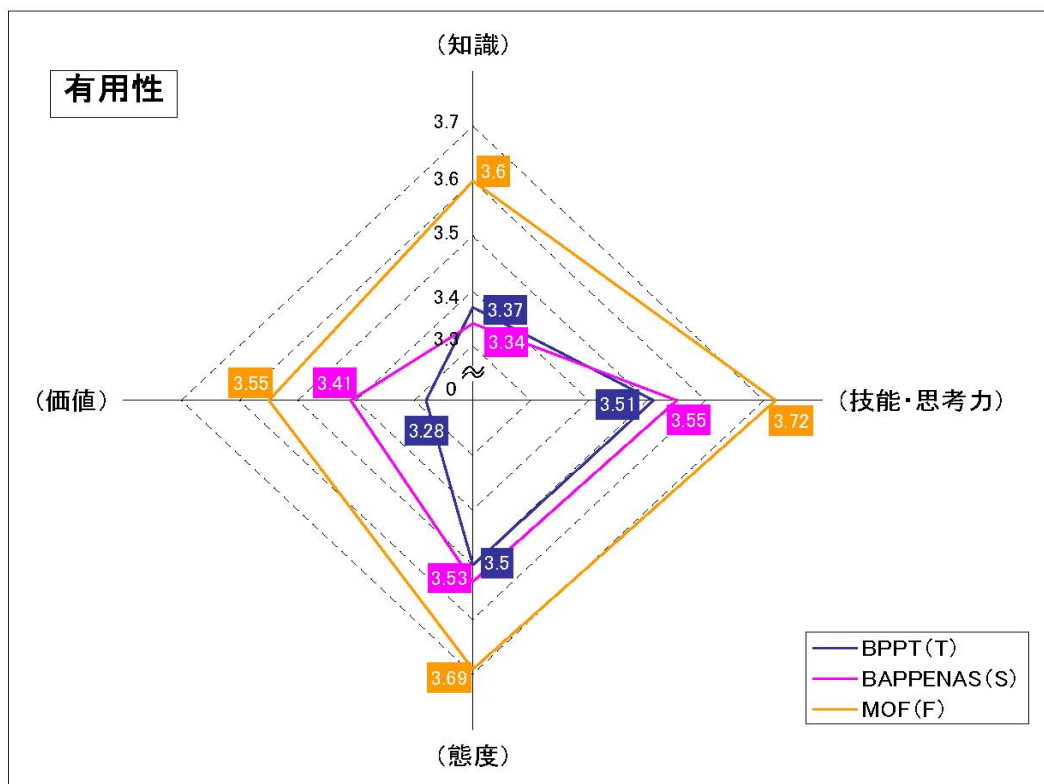


表5 日本留学生とインドネシア留学生の間で有用度の評価に有意な差が見られる項目

	日本留学生	インドネシア留学生
(知識)		
インドネシアの開発等に関する知識	3.18**	3.45**
職務分野の基礎的知識・理論・方法	3.51*	3.34*
(技能・思考能力)		
新たな発想や構想をする力	3.62*	3.45*
英語運用能力	3.39*	3.03*
日本語運用能力	2.72*	2.06*
国際性	3.36**	2.77**
(態度)		
規律性	3.73**	3.53**
(価値)		
グローバル・国際的基準重視	3.4**	3.07**
地方重視	2.97**	3.31**

(注) 「**」及び「*」はそれぞれ、1%、5%の水準で統計的に有意な差があることを示す。

(4) 特に有用性が高い能力群（コア能力）の抽出

上記のとおり、各能力の行政官にとっての有用性については、全体として評価は高いが、その中でも特に高く評価されているものの抽出を試みたのが表 6 である。ここでは、日本留学者とインドネシア留学者の両グループにおいて高く評価されている（仮に 3.5 以上とした）項目をピックアップしてみた。

表 6 日本留学者及びインドネシア留学者の双方に有用度評価の高い項目（スコア：3.5 以上）

双方のグループで 3.7 以上	論理的思考<技>
双方のグループで 3.65 以上	問題解決能力<技> 責任感<態>
双方のグループで 3.6 以上	コミュニケーション能力<技> 倫理性<態> 自信を持って仕事に取り組む態度<態>
双方のグループで 3.55 以上	アスピレーション<価> 情報収集・処理能力<技> 長期展望<技> 目標達成志向<態> IT 活用能力<技>
双方のグループで 3.5 以上	規律性<態> 科学的な調査・分析能力<技> チャレンジ精神<態> 決断力<技> 積極性<態> 好奇心<態> 時間管理能力<技> 対人交渉・調整力<技>

(注) (2)<技>は「技能・思考能力」、<態>は「態度」、<価>は「価値」のカテゴリーの項目であることを示す。

この表には、調査票に提示した 42 項目の能力のうち 19 項目が挙っている。仮にこれを“コア能力”と呼び、今後の分析の中心的な項目とする。またこの 19 項目は、「技能・思考能力」に属するものが 10 項目、「態度」が 8 項目、「価値」が 1 項目で、「知識」に関する項目がここでも上位に挙げられていない。留学や訓練の目的や目標設定、さらにはその内容を考える上で示唆するものが大きいと思われる。

5-5 能力の向上の評価（資料2参照）

資料2の表「III」は、42項目の能力について、留学によってどの程度向上したかを評価してもらった結果である。加えて、しばしば留学の副次的効果として指摘されている人脈の形成についても質問している（日本留学生4問、インドネシア留学生3問）。いずれも「1 向上しなかった」、「2 少し向上した」、「3 かなり向上した」、「4 きわめて向上した」の4段階で評価している。この表に示したのは、その平均点である。また下記表7は、能力の項目を、日本留学生、インドネシア留学生別に向上度が高いと評価されたものの順位に並べ直したものである。主なファインディングスは以下のとおりである。

（1）全体として能力向上の認識は高い

ここでも、日本及びインドネシア留学生いずれにおいても、能力向上の自覚は高い。「かなり向上した」（ポイント3）未満の項目は、日本留学生では、「インドネシアの全般的な開発課題や政策課題に関する知識」、「地方重視」の価値観及び「日本語運用能力」で、インドネシア留学生では、「英語運用能力」、「国際性」及び「日本語運用能力」のみであった。

（2）「知識」よりも「技能・思考能力」や「態度」面でより向上

能力を「知識」、「技能・思考能力」、「態度」、「価値」に分けてみると、図3のとおり、留学の効果は、日本、インドネシアいずれも「知識」の面に限られるのではなく、むしろ「態度」の変容において最も大きく、その後に「技能・思考能力」、「価値」が続き、「知識」は相対的にいって向上の認識が最も低い。有用度の評価とまったく同じ結果となっている。

（3）日本留学生とインドネシア留学生とでは能力向上にかなりの差

同じく図3が示すように、日本留学組とインドネシア留学組の比較では、前者が後者に比べ「技能・思考能力」、「態度」を中心に、全体的に能力が向上したという認識は高い。

また個々の能力について、日本留学生とインドネシア留学生で能力向上の評価に有意な差があった項目は、下記表8に示すとおりである。これによると42項目のうちほぼ40%に当たる16項目において、留学先により能力向上に有意な差が見られる。これは有用性については9項目にしか差がなかったことと比べれば、留学経験の違いが異なった能力向上をもたらしていることが示唆される。

「インドネシアの開発等に関する知識」と「地方重視」の価値観において、インドネシア留学生が高い向上度を示しているほかは、いずれも日本留学組の方が高い。特に、「規律性」、「チャレンジ精神」、「コミュニケーション能力」、「グローバル・国際的基準重視」、「国際性」などが日本での方がより身についたことが示唆されている。

表7 能力向上の評価（評価の高いもの順）

日本留学		インドネシア留学		知識 技能・思考力 態度 価値
論理的な思考能力	3.64	地方重視	3.71	
科学的な調査・分析能力	3.61			
チャレンジ精神	3.61			
長期展望	3.58			
責任感	3.57			
自信を持って仕事に取り組む態度	3.56	自信を持って仕事に取り組む態度	3.54	
アスピレーション	3.56	情報収集・処理能力	3.53	
規律性	3.54	論理的な思考能力	3.52	
コミュニケーション能力	3.52			
好奇心	3.51			
幅広い教養	3.5			
情報収集・処理能力	3.5			
問題解決能力	3.5			
学習能力	3.49	好奇心	3.49	
目標達成志向	3.49	アスピレーション	3.49	
インドネシアの国益重視	3.49			
倫理性	3.46	幅広い教養	3.48	
		目標達成志向	3.46	
		科学的な調査・分析能力	3.45	
		長期展望	3.45	
積極性	3.44			
グローバル・国際的基準重視	3.44			
態度	3.43			
新たな発想や構想をする力	3.43	責任感	3.43	
技能・思考力	3.42	インドネシアの開発等	3.42	
		問題解決能力	3.42	
		新たな発想や構想をする力	3.4	
寛容性	3.4			
仕事中心主義	3.4			
職務関連分野の基礎的知識・理論・方法	3.39			
愛国心	3.39			
決断力	3.38	学習能力	3.38	
IT活用能力	3.37	インドネシアの国益重視	3.38	
国際性	3.37			
価値	3.32	チャレンジ精神	3.37	
時間管理能力	3.32	決断力	3.36	
合意志向	3.32	仕事中心主義	3.33	
		態度	3.32	
		コミュニケーション能力	3.32	
職務関連分野の最新の知識・理論・方法	3.29	柔軟性	3.31	
		寛容性	3.3	
知識	3.27	価値	3.29	
自己評価能力	3.26	技能・思考力	3.28	
		積極性	3.28	
対人交渉・調整力	3.23	知識	3.26	
職務関連分野の実務的な知識	3.22	対人交渉・調整力	3.26	
柔軟性	3.21	合意志向	3.26	
		倫理性	3.24	
リーダーシップ	3.17	グローバル・国際的基準重視	3.22	
家族中心主義	3.15	自己評価能力	3.21	
宗教心	3.14	愛国心	3.21	
奉仕精神・献身	3.12	家族中心主義	3.21	
		宗教心	3.2	
		奉仕精神・献身	3.18	
英語運用能力	3.04	職務関連分野の基礎的知識・理論・方法	3.16	
インドネシアの開発等	2.96	リーダーシップ	3.15	
地方重視	2.93	職務関連分野の実務的な知識	3.12	
日本語運用能力	2.78	職務関連分野の最新の知識・理論・方法	3.1	
		時間管理能力	3.09	
		規律性	3.08	
		IT活用能力	3.07	
		英語運用能力	2.58	
		国際性	2.49	
		日本語運用能力	1.22	

図3 カテゴリー別の能力向上評価

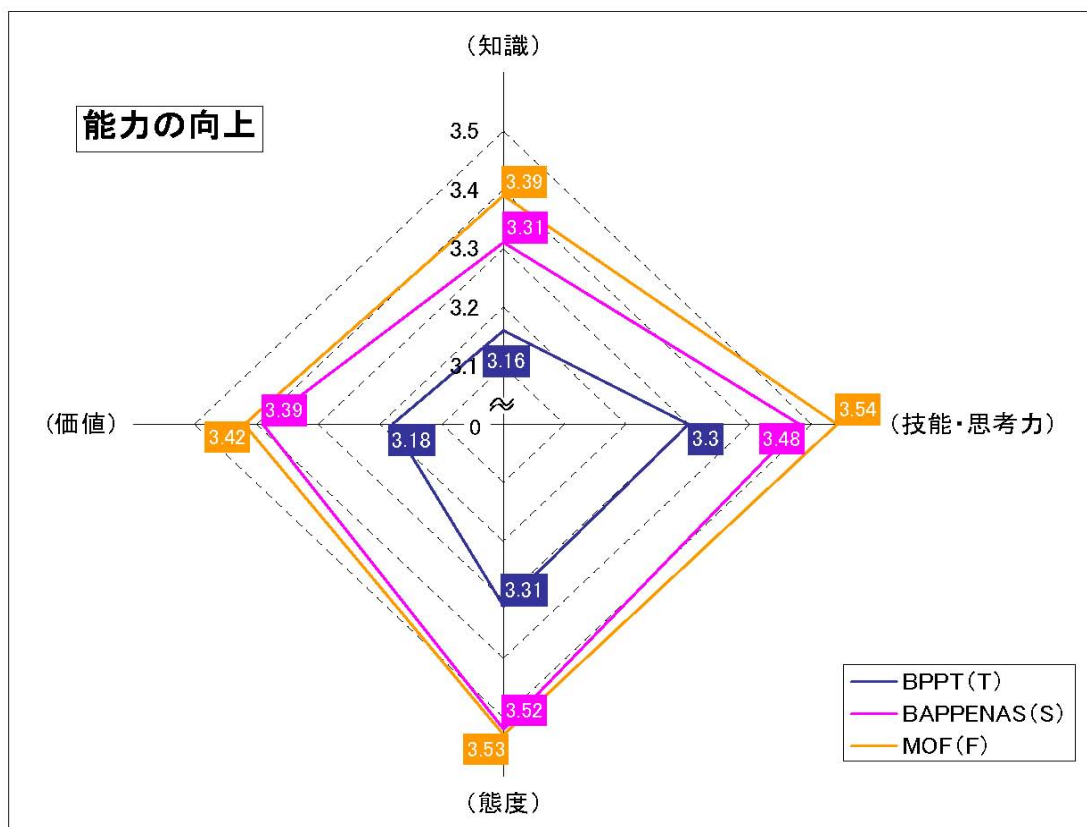
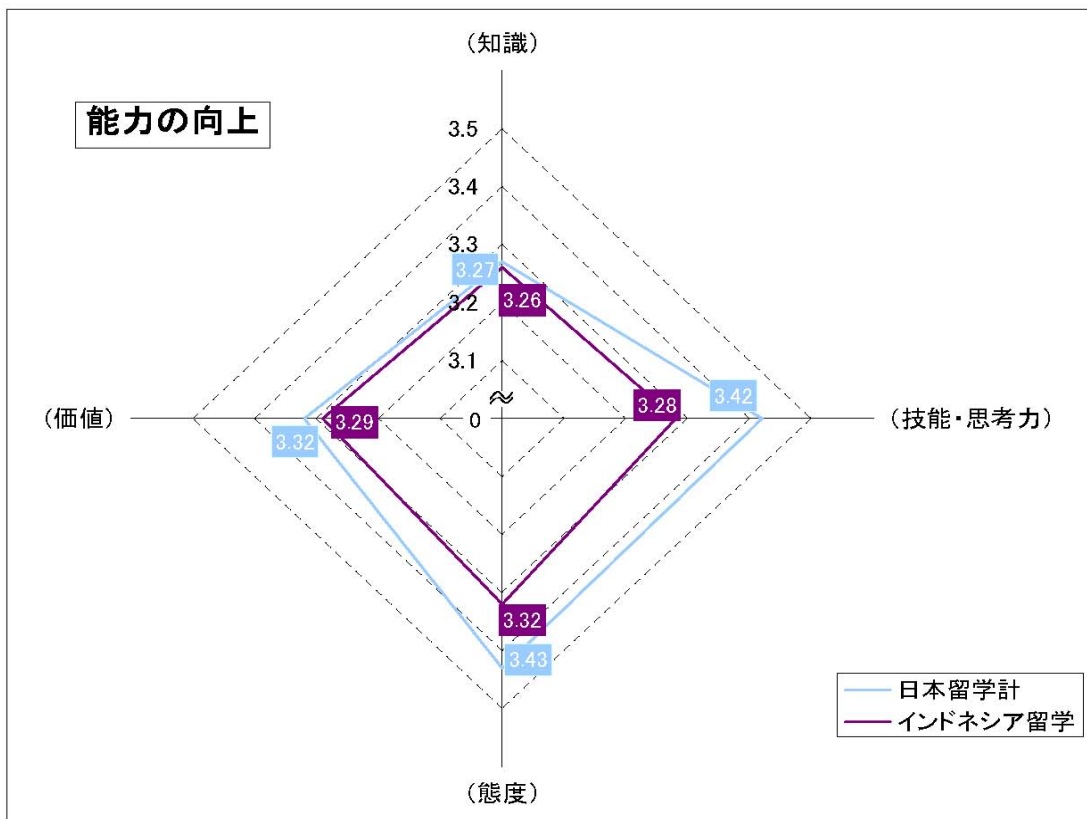


表 8 日本留学者とインドネシア留学者の間で能力向上度の評価に有意な差が見られる項目

	日本留学者	インドネシア留学者
(知識)		
インドネシアの開発等に関する知識	2.96**	3.42**
職務分野の基礎的知識・理論・方法	3.39**	3.16**
職務分野の最新の知識・理論・方法	3.29*	3.1*
(技能・思考能力)		
科学的な調査・分析力	3.61*	3.45*
IT 活用力	3.37**	3.07**
コミュニケーション能力	3.52**	3.32**
英語運用能力	3.04**	2.58**
日本語運用能力	2.78**	1.22**
国際性	3.37**	2.49**
時間管理能力	3.32*	3.09*
(態度)		
倫理性	3.46*	3.24*
規律性	3.54**	3.08**
チャレンジ精神	3.61**	3.37**
積極性	3.44*	3.28*
(価値)		
グローバル・国際的基準重視	3.44**	3.22**
地方重視	2.93**	3.71**

(注) 「**」及び「*」はそれぞれ、1%、5%の水準で統計的に有意な差があることを示す。

(4) 派遣機関の間で能力向上に際だった差

図 3 及び資料 2 の表「III」から明らかのように、派遣機関別では、先の全体的評価で見たようにほとんどすべての項目において、BPPT からの派遣者の能力向上の認識が、BAPPENAS や MOF 派遣者のそれを際だって下回っている。

(5) 向上度上位の能力

表 9 に、有用性の場合と同様、日本留学者とインドネシア留学者に共通して向上の度合いが高く評価された項目（有用性に比べて能力向上の評価は全体として低いので、例えば 3.4 以上）を挙げてみた。

有用性の場合このような共通して高い評価を示す項目が 19 項目であったのに対し、能力向上では 12 項目と少なく、両グループにおいて能力向上の項目が異なっていることが示唆される。

また、この12項目のうち、「技能・思考能力」の項目が6、「態度」が4、「知識」と「価値」それぞれ1で、ここでも「技能・思考能力」や「態度」面での向上が際だっている。

表9 日本留学者及びインドネシア留学者の双方に能力向上度評価の高い項目（スコア：3.4以上）

双方のグループで3.5以上	論理的思考<技> 情報収集・処理能力<技>
双方のグループで3.4以上	科学的な調査・分析能力<技> 長期展望<技> 責任感<態> 自信を持って仕事に取り組む態度<態> アスピレーション<価> 好奇心<態> 幅広い教養<知> 問題解決能力<技> 目標達成志向<態> 新たな発想や構想をする力<技>

(注) (2)<知>は「知識」、<技>は「技能・思考能力」、<態>は「態度」、<価>は「価値」のカテゴリの項目であることを示す。

(6) 人脈形成の効果は若干

資料2の表「III」にある、「その他」は、留学の副次的効果として人脈形成の有無を調査したものであるが、その効果はある程度あるものの、他の効果に比べて小さい。当然のことではあるが、日本留学組では日本人を含む外国人との、インドネシア留学組では、やはり行政官を含むインドネシア人との人脈形成により効果があるようである。

5-6 能力向上の観点から見た留学中の活動の意義付け⁵

資料2の表「IV」は、留学中のどのような活動が能力向上に貢献したかについて、「1 貢献していない/参加したことはない」、「2 少し貢献している」、「3 かなり貢献している」、「4 きわめて貢献している」の4段階で評価してもらい、その平均値を示したものである。また表10は、それぞれの活動の貢献度を日本留学者、インドネシア留学者別に高い順に並べ替えたものである。主なファインディングスは以下のようなものである。

(1) 留学生自身の自主的な勉学が能力向上により貢献

日本留学者、インドネシア留学者いずれのグループも、講義やゼミなどの大学が提供する活動よりも、レポート作成など自らのアカデミックな活動が能力の向上に繋がったと認識している。特に、「参考文献等資料解説」、「レポート論文作成」、「資料検索・収集」は高

⁵ 「課外活動等」については、項目の内容が異なるので、日本留学者とインドネシア留学者の比較は行っていない。

く評価されている。大学院で学んだ者が大半を占めていることから、当然の結果といえるかもしれない。

(2) 全体として日本留学者の方が留学中の活動をより高く評価

他方表 10 から明らかなように、留学中の活動の評価については、両グループでかなりの相違が見られる。日本留学者は、インドネシア留学者よりも全体として、留学中の活動の能力向上への貢献度を高く評価している。

個々に見ても、ほとんどの項目で、日本留学者の評価が有意に高い。「教員による個別指導」、「実習・実験」、「ゼミナール」、「学内外の研究会の組織・参加」、「教員の研究活動への参加・補佐」、「ティーチング・アシスタント」などがその項目である。また、日本留学者の間では、大学外の活動である「日本での日常生活」を能力向上に貢献するものとして比較的高く評価していることは注目される（「カリキュラム以外の自主的な知識・技能開発」と「課外活動等」については、項目が異なるので両者の差の検定は行っていない）。

表 10 留学中の活動の能力向上への貢献度評価（貢献度順）

留学中の活動

教員や大学主導の活動の能力向上への貢献度		カリキュラム以外の自主的な知識・技能開発	
自主的なアカデミックな活動		課外活動等	
日本留学		インドネシア留学	
参考文献等資料解読	3.79	参考文献等資料解読	3.76
資料検索・収集	3.78	レポート・論文作成	3.73
レポート・論文作成	3.78	資料検索・収集	3.67
自主的なアカデミックな活動	3.67**		
教員による個別指導	3.62**		
実習・実験	3.59**		
学内の勉強会組織・参加	3.58**		
ゼミナール	3.57**		
ITに関する学習	3.54	講義	3.56**
英語学習	3.51**	自主的なアカデミックな活動	3.53**
日本での日常生活	3.49	ITに関する学習	3.44
教員や大学主導の活動の能力向上への貢献度	3.46**		
教員の研究活動への参加・補佐	3.43**		
インターンシップ	3.4		
学外の勉強会組織・参加	3.39**	実習・実験	3.37**
講義	3.3		
カリキュラム以外の自主的な知識・技能開発	3.3	学内の勉強会組織・参加	3.29**
インドネシア留学生との交流・共同活動	3.3	ゼミナール	3.28**
		教員による個別指導	3.27**
日本国内の旅行	3.27	教員や大学主導の活動の能力向上への貢献度	3.26**
		インターンシップ	3.26
		インドネシア学生との交流・共同活動	3.26
課外活動等	3.21		
ティ칭ング・アシスタント	3.19**	英語学習	3.13**
日本人学生との交流・共同活動	3.19	学外の勉強会組織・参加	3.09**
他の国の留学生との交流・共同活動	3.18	カリキュラム以外の自主的な知識・技能開発	2.98
		地域住民との交流・共同活動	2.91
日本語学習	2.93	教員の研究活動への参加・補佐	2.9**
		課外活動等	2.85
地域住民との交流・共同活動	2.81	ティ칭ング・アシスタント	2.77**
		外国人との交流や共同活動	2.38
		その他の言語の学習	2.37

(注) 「**」は、1%の水準で両グループに有意な差があることを示す。

他方、「インターンシップ」の評価については両者で有意な差はなく、また「講義」については、インドネシア留学組の方がその意義を積極的に評価している。

5-7 “コア能力”向上に関わる要因

表 11 は、先に抽出した有用度が特に高いとされる 19 の“コア能力”について、日本及びインドネシア留学者別に、能力向上の度合いと留学中の活動の能力向上への貢献度の相関関係を算定したものである。

表 11 コア能力の向上に関わる留学中の活動（相関係数）

コア能力の項目	活動の項目（日本留学）（相関係数 γ ）	活動の項目（インドネシア留学）（相関係数 γ ）
（技能・思考能力） 論理的思考能力	<ul style="list-style-type: none"> ・ティーチング・アシスタント (0.471) ・教員が行なう研究活動への参加・補佐 (0.441) ・他の国の学生との交流や共同生活 (0.391) 	なし
問題解決能力	<ul style="list-style-type: none"> ・ティーチング・アシスタント (0.446) ・他の国の学生との交流や共同生活 (0.393) ・日本人学生との交流や共同活動 (0.379) ・日本での日常生活 (0.364) 	英語学習 (0.342) 講義 (0.316)
コミュニケーション能力	<ul style="list-style-type: none"> ・日本人学生との交流や共同活動 (0.431) ・ゼミナール (0.358) 	レポート・論文作成 (0.350)
情報収集・処理能力	<ul style="list-style-type: none"> ・ティーチング・アシスタント (0.459) ・実験・実習 (0.439) ・コンピュータなど IT に関する学習 (0.378) ・レポート・論文作成 (0.360) ・ 	教員が行なう研究活動への参加・補佐 (0.386) 学外の勉強会の組織あるいはそれへの参加 (0.358) 文献解読 (0.354) 学内の勉強会の組織あるいはそれへの参加 (0.353) ゼミナール (0.319)
長期展望	<ul style="list-style-type: none"> ・学内の勉強会の組織あるいはそれへの参加 (0.470) ・学外の勉強会の組織あるいはそれへの参加 (0.428) ・講義 (0.368) ・ゼミナール (0.352) 	なし
IT 活用能力	IT 学習 (0.533)	なし
科学的な調査・分析能力	<ul style="list-style-type: none"> ・ティーチング・アシスタント (0.421) ・教員が行なう研究活動への参加・補佐 (0.352) 	・レポート・論文作成 (0.314)
時間管理能力	<ul style="list-style-type: none"> ・日本での日常生活 (0.396) ・講義 (0.395) 	<ul style="list-style-type: none"> ・英語以外の言語学習 (0.411) ・地域住民との交流や共同活動 (0.316) ・教員による個別指導 (0.314)

コア能力の項目	活動の項目（日本留学）（相関係数 γ ）	活動の項目（インドネシア留学）（相関係数 γ ）
対人交渉・調整力	<ul style="list-style-type: none"> ・日本人学生との交流や共同活動 (0.447) ・インドネシア人留学生との交流や共同活動 (0.425) ・他の国の学生との交流や共同活動 (0.378) 	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート・論文作成 (0.347) ・英語以外の言語学習 (0.332) ・学内の勉強会の組織あるいはそれへの参加 (0.330) ・参考文献等資料解説 (0.327) ・学外の勉強会の組織あるいはそれへの参加 (0.305)
決断力	<ul style="list-style-type: none"> ・講義 (0.393) ・他の国の学生との交流や共同活動 (0.383) 	なし
(態度) 責任感	<ul style="list-style-type: none"> ・日本での日常生活 (0.460) ・教員が行なう研究活動への参加・補佐 (0.357) 	なし
倫理性	<ul style="list-style-type: none"> ・日本での日常生活 (0.480) 	なし
自信を持って仕事に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・教員が行なう研究活動への参加・補佐 (0.357) 	なし
目標達成志向	<ul style="list-style-type: none"> ・日本での日常生活 (0.443) ・実験・実習 (0.368) ・インターンシップ (0.353) 	なし
規律性	<ul style="list-style-type: none"> ・日本での日常生活 (0.467) 	<ul style="list-style-type: none"> ・英語以外の言語学習 (0.377)
チャレンジ精神	なし	<ul style="list-style-type: none"> ・文献購読 (0.330) ・レポート・論文作成 (0.322)
積極性	<ul style="list-style-type: none"> ・学内の勉強会の組織あるいはそれへの参加 (0.434) ・講義 (0.388) 	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート・論文作成 (0.346)
好奇心	<ul style="list-style-type: none"> ・実験・実習 (0.383) 	なし
(価値) アスピレーション	<ul style="list-style-type: none"> ・日本での日常生活 (0.402) ・日本国内の旅行 (0.379) 	なし

(注) 相関係数は、いずれも1%の水準で有意である。

例えば、論理的思考能力がより身についたとする者とティーチング・アシスタントの経験が役に立ったとする者との相関は比較的高く（相関係数 $\gamma=0.471$ ）、この両者に比較的高い関係性（例えば、ティーチング・アシスタントの経験が、論理的思考能力の向上により貢献していると認識されている）が示唆される。一般に相関係数が $\pm 0.4\sim 0.6$ の場合やや強

い相関があるとされるが、ここではやや広く ± 0.35 ～（ただしインドネシア留学については全体に低いので ± 0.3 ～）のものを表に取り出してみた。また ± 0.4 ～については、太字で示した（42の全項目についての留学中の活動との相関係数は資料3に示した）。

これらをどう解釈するかは、ここで示した統計だけでは導かれない。例えば、様々な態度の形成に日本留学中の日常生活での経験が働いているようであるが、日常生活のどのような経験が留学生にどう理解され、どう能力の形成に関わるかは、追加の情報や追加の調査が必要であり、それは今回の調査の範囲を超えるものである。同様に、論理的思考能力とティーチング・アシスタントの間には比較的強い相関が見られるが、ティーチング・アシスタントを行なう際の何が論理的思考の形成に役立つのかを理解するには、やはり追加の情報が必要である。しかしここでは、それぞれの能力の向上にどのような要因が作用している可能性があるかが示されれば十分である。

ここでの主なファインディングは以下のとおりである。

（1）日本留学の方が能力向上にインパクトを与える要因が多い

表11から明らかなように、インドネシアの大学への留学よりは、日本留学において特定の能力向上に比較的強く関わる活動が見いだされるケースが際だって多い。これは同じ経験でも、異国でのものの方がより大きなインパクトを持つということであろうか。

（2）学内外の多様な活動が様々な能力形成に関与

先にも述べたように、19の“コア能力”は、「知識」に関わるものではなく、ほとんどが「技能・思考能力」と「態度」に関わるものであった。したがって、これらの能力向上に関わると思われる要因は、大学の中核的な活動である講義やゼミといった活動にとどまらず、大学の活動の中でも、教員の研究への参加・補佐（「論理的思考能力」）やティーチング・アシスタント（「論理的思考能力」、「問題解決能力」）などの副次的な活動も大きな役割を果たしているようである。また、学内外での勉強会への参加も一定の能力の形成（「長期展望」）に大きな役割を果たしているようにみえる。

また、日常生活での経験を中心とした、学外での活動・経験もある種の能力の形成に大きな要因となっているようである。日常生活での経験は、「時間管理能力」、「責任感」、「倫理性」、「目標達成志向」、「規律性」、「アスピレーション」と多岐にわたって重要な要因になっていることが示唆される。さらに、学生同士の交流（日本人学生、インドネシア人留学生、他国の留学生）も、「対人交渉・調整力」や「決断力」の形成の大きな要因となっているようである。

いずれにしても能力の向上には、学内外の多様な要因が関わっており、この観点から留学の効果を考察する場合、大学の中だけでなくより広い視野を必要としているといえる。

6. 結論及び提言

以上個々のファインディングを示してきたが、ここではそれらをまとめるとともに、それらが、本件事業の評価や今後の職業人の能力向上のための留学支援事業を考える上で

ういう意味を持っているかを述べてみたい。

(1) 留学の評価は極めて高いが、身につけた能力の活用が課題

本事業全体についての受益者（留学者）の評価は、極めて高いと断言していい。能力向上の観点からの評価も、1（向上しなかった）から4（極めて向上した）の4段階評価の平均点が3.4～3.5と高かった（同：日本留学者3.47、インドネシア留学者3.41）。一方、実際の職場での活用となると、同じく1（有用でない）から4（きわめて有用である）の4段階評価で平均3.1程度となっており、能力の向上度への評価点より値が低くなっている。この種の調査では、全体的に高めの評価がなされるので、より実態を把握する上で、今後この点に着目した調査も必要であろう。

(2) 有用度が特に高い“コア能力”の抽出/「技能・思考能力」や「態度」が重要

今回の調査の中の能力の有用度に関する質問から、“コア能力”とでも呼ぶべき有用度が特に高いとされた19の項目を抽出した。表12にそれらを改めて示した。

表12 コア能力

知識	なし
技能・思考能力 (10項目)	○論理的思考、○問題解決能力、○コミュニケーション能力、 ○情報収集・処理能力、○長期展望、○IT活用能力、 ○科学的な調査・分析能力、○決断力、○時間管理能力、 ○対人交渉・調整能力
態度 (8項目)	○責任感、○倫理性、○自信を持って仕事に取り組む態度、 ○目標達成志向、○規律性、○チャレンジ精神、○積極性、○好奇心
価値(1項目)	○アスピレーション

ここで留意すべきは、これらの項目はほとんどが「技能・思考能力」と「態度」に関するもので、「知識」に関する項目は含まれていないことである。もしこの“コア能力”の向上が留学の目的であるとすれば、知識向上（学位取得から想定される主な効果）に加えて、様々な技能や態度を向上させるよう、カリキュラムを含め留学中に提供される教育・訓練を工夫する必要があるだろう。

行政官に求められる能力は、業務内容や職階などにより様々に異なっていると思われるが、ここに示したのは将来を期待されている中堅のインドネシアの行政官が選んだ中核的な能力であり、今後行政官の能力について議論する場合（特にインドネシアにおいて）、たたき台のひとつとして役に立つであろう。

(3) 能力向上の観点からみて留学事業は概ね成功

／「技能・思考能力」や「態度」がより向上

上記のコア能力の向上という観点から、今回の留学事業を評価した場合、これら19項目の能力は、「きわめて向上した」と「かなり向上した」の中間ぐらいに評価されており、この限りにおいて本事業は有効であったといえよう。

しかし他方、能力の有用度と向上度の間に乖離（特にインドネシア留学組に大きい）が

見られることから、本当のところは、期待されたほど、あるいは求められているほど能力は向上しなかったのではないかとの印象も拭えない。

能力の有用性の評価と同様、留学による能力の向上についても、「知識」よりも「技能・思考能力」や「態度」がより大きく向上したという結果になっており、今後類似の事業を行なうとすれば、この点からも留学の目的・プログラムの内容を再検討する必要があるだろう。

(4) 日本留学は有効

本調査のもうひとつの重要な結論は、日本留学がインドネシア留学に比べて概してより有効であると評価されていることである。日本留学において多くの点でインドネシア留学より能力の向上があったとされ、また日本留学で提供される様々な学習機会（講義、ゼミ、勉強会等）がインドネシア留学に比べより能力向上に貢献したと評価されている。ただそれが、他の国に留学した場合にもみられる外国留学一般の効果なのか、日本留学特有の効果なのかを知るにはさらなる調査と分析が必要である。

(5) 留学中の多様な活動が能力向上に貢献

さらに、留学における能力向上には、講義やゼミなど大学における主要な活動だけでなく、ティーチング・アシスタントや教員の研究への参加や補助といったいわば副次的な活動、レポートや論文の作成など自主的なアカデミックな活動、さらには、日常生活や学生同士の交流など大学の課外活動までもが関わっていることが明らかになった（本調査では、“コア能力”の向上にどのような活動が関わっている可能性があるかも示した）。今後行政官等の職業人育成のための留学生受入れプログラムを作成に当たっては、この点に十分配慮する必要がある。

(6) 派遣機関の間で留学の評価に大きな違い

本留学事業では、BPPT、BPPENAS、MOF の 3 機関が実施機関として関係省庁の行政官を派遣したが、BPPT からの派遣者は、留学全体の意義、また個別の能力の向上いづれについても、他の機関からの派遣者に比べ際だって低い評価をしている。これは、BPPT における本事業の位置づけや意義付けによるものなのか、留学生の職場復帰後の処遇と関係があるのか、あるいは BPPT 派遣者の学んだ分野（他に比べて理工系が多い）によるものなのか、今後関係省庁のニーズにあった留学事業を実施する上で、その理由を明らかにすることが重要であろう。

(7) 本調査研究の限界

今回の調査には時間的、経費的制約などから、2つの大きな限界があった。ひとつは、この調査では、能力の向上について受益者（留学者）本人の主観的な評価しか聞いていないことである。一部少数に対してインタビューも行なわれたが⁶、上司や同僚など第三者の評

⁶ 本調査でも7人の上司に対してインタビューが行われ、概ね留学後の行政官のパフォーマンスを高く評価している。また留学経験者自身についての回答と同様、知識の向上よりも技能や態度（コミットメント、ハードワーク、規律など）を高く評価する結果が出ている。しかし、ある上司は派遣時の上司とは異なっていた、行政官に求められる能力に関する共通の基準が示されていないなどの問題があり、より構造化した評価方法を開発する必要がある。

価は十分に考慮されていない。このことから、例えば、評価が甘くなりがちでスコアが高くなる傾向が見られたのかもしれない。

第二は第一の点とも関連して、能力の有用度や向上度を主観的に判断してもらうにせよ、何らかの共通の基準を示すことも必要であったかもしれないが、今回はこれも上記のような制約から行なわれていない。例えば「アスピレーション」とはどのようなものを指しており、それが「おおいに向上した」とはどういうことなのかの判断は、回答者に委ねられた。今後の同様な調査では、特に Competency 論などで用いられている具体的な行動レベルでの定義や評価基準などを用いることが考えられる。

(8) 今後行政官等の職業人の能力向上を目的として留学・訓練事業を借款で実施する際の手順や方法についての提言

(8-1) 能力向上を事業の目標として設定することについての合意

従来の借款による留学・訓練事業においては、「留学によって人材を育成し、当該国の開発に資する」といった漠たる目標設定がなされるケースが多く見受けられた。もちろん最上位の目標としてこのように一般的なものが設定されることはあり得るが、目に見える形で事業の成果を出し、それを評価するには、より具体的な形で事業の到達目標を設定する必要がある。

まずそもそも、行政官の具体的な能力向上を事業の目標として設定するかどうかについて、借款を提供する側と受給する側との間で合意しておく必要である。

このような目標設定について合意がなされれば、次はどのような能力の向上を図るかを決定しなければならない。それは、職業分野、職務内容、職階、それぞれの組織や国の実情等に沿って設定されるべきであって、一般的にある職業に求められるべき能力を外部者（あるいは評価者）が規定し、それを適用することは適当でないし、またきわめて困難である（そもそも例えば、一般的に行政官に求められる能力というものが存在するのかという問題もある）。これも、借款の提供者と受給者双方が共同で行なうべきものであろう。

(8-2) 向上させるべき能力の設定方法

ある程度の組織であれば求められる職務内容とその遂行に必要な資質や能力が明文化されていることも少なくない。例えば、インドネシアの公務員は、忠実性、責任感、規則巡視など8項目、44チェックポイントで評価（各ポイントを5段階で評価）されるという（JICA 地方行政人材育成プロジェクト（2006）、23頁）。また三鷹市のように、職員に求める資質・能力を公表している例もある（三鷹市（2004））。これらは目標設定に当たって大いに参考となる。明文化されたもののほかに、組織として欠如していると感じられている能力、あるいは新たに求められるようになった能力を付け加えることも可能であろう。今回の調査で19のいわゆる“コア能力”を抽出したので、それを基に設定作業を出発させることもできよう。

さらにより実態に即したものを抽出しようというのであれば、今回の調査ではごく小規模にしか実施できなかったが、もっと本格的に当該職業における成功者（幹部職員など）

へのインデプス・インタビューを用いることもできよう。

その際今回の調査でも明らかになったように、能力は知識だけではなく技能・思考能力、態度さらには価値にまで及ぶ重層的なものであることに十分留意する必要がある。

(8-3) ベースライン調査の実施と数値目標の設定

留学や訓練の効果を測るには、当然比較が必要であるが、その際対照群（留学しなかった者や他の国へ留学した者）と比較するか、事前・事後を比較する方法がある。事前に評価を考慮して事業をデザインするのであれば、後者の方法が適当であろう。そのためには、事前の調査として、留学あるいは訓練予定者の能力を評価しておく必要がある。できれば、本人の自己評価のほか、客観性を確保する観点から上司その他の関係者による評価も行なわれることが望ましい。

また可能ならば、できるだけ同一の評価基準が共有できるよう、具体的な行動の観点から評価を行なう⁷ことが望ましい。さらに、この能力の事前評価は、レベルなり段階なり何らかの形で数値化された形で示されることが望ましい。しかし実際には、この作業は本格的な行政官の職務分析や能力分析を伴うものであり、時間と経費を要するものであろう。

(8-4) 教育・訓練の受入れ機関

上記「8-1」～「8-3」のプロセスを経て、様々なタイプの能力向上事業を構想することが可能であろうが、仮に本調査で抽出した19の能力の向上を目指す事業を行なうとした場合、いくつか決定しなければならない選択肢がある。第一は、短期的な研修によりそのような能力が育成できるのか、それとも長期的な教育・訓練が必要かどうかの判断である。今回の調査結果は、後者を支持しているように見える。すなわち、再三述べているようにコア能力の大半が、「技能・思考能力」や「態度」に関わるものであり、知識の習得などと違って時間を要すると考えられるからである。

第二の選択肢は、日本留学かインドネシア留学かである。これについても、留学の効果からいえば、日本留学がインドネシア留学に比べて概してより有効であることが今回の調査結果から示されており、日本留学を選択するということになるだろう。ただ費用を考慮したときに、果たして日本留学の優位性が保たれるかどうかはまた別の問題である。

なおこれと関連して、従来しばしば第三国への留学の必要性も指摘されてきた。その根拠として挙げられるのが、留学希望大学の当該分野での学問的優位性である。しかし、今回の調査で明らかになったように、留学によって培われるものが単に学問的な知識に限られるものではなく、態度や価値にまで関わる重層的なものであること、そして、そのよう

⁷例えば太田（2002、134-135頁）は、営業職のコミュニケーション能力の評価基準として、レベル1「顧客にポイントを簡潔に説明し、顧客の話を傾聴する」、レベル2「顧客に商品情報の複雑な内容を的確にブレイクダウンして伝え、関心を持って顧客の話を傾聴する」、レベル3「状況に応じ効果的なコミュニケーション手段を選択し、顧客に商品の内容を十分理解させ、共感と深い理解を持って顧客の話を傾聴する」、レベル4「傾聴した内容を含め、立場の違いをこえ、顧客に説得力あるメッセージを伝え、顧客に購買意欲を起こさせる」を挙げている。

な能力の形成には大学内外の多様な活動が関わっていることを考えると、第三国への留学を単に学術的な観点だけでなく、様々な観点から評価する必要がある。

次の選択肢は、受入れ機関ははたして大学が適切かという点である。能力向上に関わる要因は、講義やゼミなどの大学の主要な教育活動以外にも、ティーチング・アシスタント、勉強会への参加、教員の研究補助等の知の伝達や創造に関わる活動や学生間の交流など、大学という環境のなかでの活動が多く、大学への留学は有効と考えられる。

(8-5) 教育・研修プログラム

仮に上述のとおり、日本留学の目的が 19 項目にわたる能力の伸張であると明確に特定されるのであれば、やはりそのニーズにあった教育プログラムが提供されるべきであろう。しかし実際には、大学はごく一部を除き、人的、財政的等の問題から、それぞれの学生グループのニーズに応じていくつものいわゆるテーラーメイド型のプログラムを提供することはしていないし（すなわち、通常の修士課程や博士課程に入学させる）、また大学側にそれを求めてもその実施はなかなか困難である。

そこでより現実的には、今回の調査で大学の主要な教育活動以外に能力形成に大きな役割を果たしている可能性があると考えられた活動（ティーチング・アシスタント、教員の研究への参加・補佐、学内外での勉強会出席、学生間の交流など）を支援するプログラムを受入れ大学に作成させ、留学生の受入れ経費に上乗せしてその経費を賄うこともひとつの方策であろう。

さらに大学の教育・研修プログラムの枠外の活動である日常生活も、多岐にわたって能力向上に貢献していることが判明している。これをどう教育・研修プログラムと関連付けて活用していくかは、確かに大きな課題である。まずそのためには、日常生活のどの側面がどの能力の向上に関わっているのかを詳細に分析する必要がある。

(8-6) モニタリング

通常この種の留学生支援事業では、定期的に様々な項目についてモニタリングが行なわれるが、この中に学生の能力向上に関する評価を入れる。これは通常の大学の学業評価とは別に、この事業による留学生について、ベースライン調査で使用した、評価方法、評価基準に従って受入れ教員に定期的に評価してもらうものである。例えば、入学時 6 ヶ月経た段階から半年に一回の目安で行なう。これはいわば継続評価でありまた第三者による評価でもあり、事業評価の重要なデータとなるであろう。

またこのモニタリングの一環として、年に 1 回程度留学生生活動調査を行ない、本事業による留学生の学内外での活動状況を把握するとともに、留学生の満足度等も併せて調査する。このデータは、単に留学生の実情把握のためだけでなく、能力の向上の要因を探るための基礎データともなる。

(8-7) 事後調査

留学終了後、三次にわたって事後評価を行なう。

1) 留学修了時調査 (能力評価)

留学者に対し、ベースライン調査に使用した調査票により自らの能力の評価を行なう。データの入手しやすさからいって、留学修了直前に日本で行なう。これは事前の調査結果と比較して、留学後の能力の向上の度合いを見るものである。

(留学修了者がいる間は毎年実施。)

2) 第1次追跡調査

最後の留学修了者が職場復帰して2年後に実施する。調査内容は、①上記1)の能力評価、②能力の活用度調査(身につけた能力が実際にそれぞれの職務遂行に当たって活用されているかどうかの調査)、③上司(関係者)による評価(ベースライン調査と同じ調査票を使用)。

3) 第2次追跡調査

上記(2)のさらに5年後に、同様の内容で実施(特に能力の維持の状況を調査)。

附論 1

留学の成果に関するこれまでの日本での研究

留学の成果を直接間接に取り扱った日本における研究は少なくなく、それを網羅することはかなり困難であり、またそのこと自体本報告の主たる目的ではないが、本調査研究の留学研究の中での位置づけを明確にするために、以下にこれまでの主要な研究を、特に留学の成果や評価に関するアプローチの仕方に焦点を当てて、簡単に整理しておく。

おそらくは石附の研究(1972)が、留学の成果に関する日本での先駆的な研究であろう。実はこの研究は、幕末から明治維新にかけての日本人留学の歴史研究であり、留学の成果についての直接的な研究ではない。しかし、西欧への留学が日本の近代化にもたらした意義という観点から留学の成果を論じている。その重要な結論の一つとして、留学は単に技術(当時は軍事技術が中心)を習得するためのものだけでなく、それと同等かそれ以上に、価値や態度の変容をもたらす(「鎖国論者が開国論者に」、「藩という意識から日本国家という意識へ」などの変容)という点でも意義があったと述べている。この点は今回の調査研究でも、基本的な仮説として用いたものである。

留学の効果や評価を含む大規模な留学生/留学経験者に対する調査としては、小林、星野らによるもの(1992)と、岩尾と萩原による3次にわたる調査(1988、1997)を挙げることができよう。前者は日本人のフルブライト奨学金によるアメリカ留学経験者に対する悉皆質問票調査で、留学中の状況、英語力、帰国後の状況、留学の効果などに関する総合的な調査である。留学の効果については、アメリカ留学を多様な観点から評価する(留学全般、学問上、就職、昇進、給与等の観点)よう調査対象者に求めている一方で、留学目的の達成度とその帰国後の応用度を尋ねている。我々の調査でも観点は異なるものの留学の評価を尋ねており、この点では小林らの調査を踏襲しているといえる。また、留学目的の達成度と応用度といった観点も、我々の使用した能力向上度と有用度と類似している。しかし留学目的の項目は、「専門知識と技術の習得」、「学位を取得する」、「アメリカへの興味関心」、「職業生活の可能性を広げる」、「語学力の習得」、「国際感覚の習得」、「経験の場と視野の拡大」など、フルブライト奨学金による留学目的自体が一般的かつ多岐にわたり、今回の高等人材開発事業のように具体的に特定されていないためか、拡散的で構造化されていない印象は否めない。

岩尾と萩原の研究では、1975年、1985年、1995年の3回にわたり滞日外国人留学生を対象として比較的大規模な質問票による調査を行なったほか、帰国留学生への質問票調査やインタビュー調査、さらには日本人学生への調査なども併せて行なっている。岩尾ら自身が明確にしているように、この研究は留学に関する社会心理学的研究で、留学生が日本人や日本社会をどう見ているか、そして留学を経験することによってそれがどう変化したかに焦点を当てている。例えば日本人の態度について、「欧米人に接するときと他の外国人と接するときとは日本人の態度が異なっている」かどうかなどの質問をしている。また、「あたたかい/つめたい」、「正直/不正直」、「偏見がない/偏見がある」など、様々な形容詞の組

み合わせを用いて留学生が持つ日本人のイメージを描こうとしている。このような研究は、一方ではいわば留学生を鏡とした日本人像の抽出の試みであり、他方後で述べる佐藤の親日家の養成という観点からの留学の評価（2002）と同様、日本（人）イメージの変容という観点から留学の効果を測定する試みでもあるといえよう。日本に留学して日本が好きになって帰ったかどうか、日本について良いイメージを持つようになったかどうかは、特に日本が奨学金を提供した場合には、大きな関心事であることは確かである。しかしこの度の調査研究は、高等人材開発事業の評価に関連して行政官の能力向上に焦点を当てたものであり、留学の効果の焦点が異なっているといえよう。

さらに日本留学の成果や評価をまったく別な観点、すなわち留学を通じた日本の教育の影響力あるいは日本の教育の評価の視点からとらえるものもある。権藤（1988）や村田（2000）の研究などがその例であろう。前者のテーマは明解で、アジア 8 ヶ国の大学教員に様々な観点（学位の価値、昇進・昇給に役立つかどうか等）から日本留学を評価させることによって、日本の大学教育のアジアでの評価を明らかにしようとしたものである。留学そのものの研究というよりは、日本の高等教育に関する研究といえるかもしれない。我々としても今回の事業により来日したインドネシアの行政官が日本の大学でどのように学びそしてそれをどう評価しているかには関心があるが、日本の大学教育全体の一般的な国際的評価についてはひとまず研究関心の外である。

一方村田の研究は、留学や研修で来日したアジア 5 ヶ国の人たちが、日本の教育の特徴をどう捉え、そしてそれを本国において取り入れたのかどうかという研究である。留学による“教育”の移転の可能性に関する研究とでもいえようか。今後日本が教育協力を進める上で、どのような日本の教育経験が有益かを知るには重要な研究と思われるが、今回の我々のテーマとは別のものであろう。

今回の我々の調査と同様、留学生政策や事業の評価の一環として留学の効果を測ろうとしたものとして佐藤の一連の調査研究がある（佐藤 2002a、2002b、2004）。これらはいずれも、インドネシアからの留学生を事例として（2004年のものはタイとの比較も加わる）、日本の留学生政策全般の評価を試みようとしたものである。ここで佐藤が日本の留学生政策とっているのは、例えば文部科学省の国費留学生制度や円借款による留学生の受入れなど特定の事業を指すのではなく、「日本への留学機会の提供や支援」（2002a、202 頁）と規定しているように日本への留学そのものを指しており、それ故それ自体に政策目標や成果が明確に定められているわけではないため、事後的に期待されていると思われる目標や成果等を Project Design Matrix (PDM) の形で設定している。そしてこれに照らして、留学の成果を測定し留学政策を評価しようと試みている。

実は佐藤（2002a）と（2002b）は、同一の調査を異なる PDM を用い（したがって異なる達成目標を設定して）分析したもので、前者は当該国の発展に必要な人材育成を後者は親日家養成を期待される目標として設定している。これらはいずれも留学経験者へのアンケート調査であるが、効果を測る指標としては、前者では、「学位等資格の取得者数」、「帰国者

割合」、「日本で習得した知識・技能を生かせる職場への就職・復帰割合」、「日本で習得した知識・技能を他の人々に伝達する割合」、「日本の留学先等関係者とコンタクトする割合」等が使われており、後者では、「留学の満足度」、「親日度」（好き、嫌い）、「日本との有効活動への参加度」、「仕事上の日本人との接触度」、「指導教官との継続的なコンタクト」などが取上げられている。なおこの調査では、日本留学生だけでなく、対照群としてアメリカ留学生と非留学生も調査対象となっており、比較することで日本留学の効果を見ようとする工夫がなされている。佐藤（2004）は、タイからの留学生をも加えた佐藤（2002a）と同様の調査である。

これらは、留学経験者の主観的な評価ではあるにせよ、より具体的指標を使って留学の成果を測定しようとした点で、本調査研究にとっても大いに参考になるものである。しかし、やはり人材養成にせよ親日家育成にせよ、それらがより具体的に何を意味するのかをもう少し掘り下げる必要があるように思われる（特に測定を念頭に置くのであれば、操作的な観点から）。例えば、親日家の概念については、先に紹介した岩尾らの社会心理学的研究を援用できるかもしれない。

以上見たのは、すべて留学生や留学経験者に留学の成果を評価させるものであったが、より客観的な指標で留学の成果を測ろうとしたものに JBIC（2003）がある。これは JBIC のインドネシア高等教育セクタースタディの一部として行なわれたもので、国際機関や外国（ADB、WB、OECD/JBIC など）からの援助により外国で博士号を取得したインドネシアの大学教員に関する調査である。その中に、日本、アメリカ、オーストラリア及び国内の大学で博士号を取得した大学教員について、研究件数、研究申請件数、出版点数、国際会議出席件数、国内会議出席件数、取得特許件数及び出版書籍点数（いずれも年間）によりそれぞれのパフォーマンスを比較している。結果は、唯一出版点数において、アメリカ、インドネシア、オーストラリア及び日本の順に有意な差があるほかは、差は出ていない。これらの項目における差異は留学だけによって説明できるかどうかは疑問なしとしなが、客観的な指標で留学の成果を測定しようとした数少ない試みとして意義があろう。

さらにこれまでの研究では、まったくなされてこなかったアプローチとして、留学の成功あるいは失敗要因の研究がある。すなわち、留学中の条件や活動と留学の成果とを結びつけようとするものである。黄（1996）は、中国人の日本留学経験者とアメリカ留学経験者について、留学中の様々な条件や活動と帰国後の満足度やその他の様々な状況との関係を、因子分析やパス解析などの統計手法を用いて分析している。因子の解釈等に疑問なしとしなが、留学中の活動と留学の効果とを結びつけようとした数少ない研究として大いに意義があるものといえる。本調査研究においても、同じ統計手法は用いていないが、大学での活動と能力の向上の関係を見ようとして試みている。

なお最後に、今回の調査研究の基本的枠組み（留学による能力の向上の度合い、その職務上の有用度、そして能力向上と留学中の活動の関係）を使った同様の調査が、黒田の指導の下に大学院おいて行なわれていることを申し添えておく（伊藤（2006））。

附論 2

Competency 論への着目

Competency の議論は、留学の成果に関する研究とはまったく別の研究・実践として展開してきたものであるが、本調査研究において留学による能力の向上を分析するに当たりこの議論を援用しているため、以下にその概要を整理しておく。

この議論は、1970 年代にアメリカのマクレランド（ハーバード大学）らによる達成動機の研究から生まれ、アメリカでは成果主義や能力主義の人事管理の手法と結びついて発展してきた。日本でも企業を中心とする人事・評価制度の見直しに伴って、1990 年代の後半から 2000 年代初頭にかけて盛んに紹介されるようになったものである。

現在の Competency の理論と実践においては一般に、Competency は「特定の仕事（職務）において高い業績をあげ続けている人に固有な行動特性」（高木 2004、25 頁）や「ある状況または職務で高い業績をもたらす類型化された行動特性」（太田 1999、27-28 頁）などと職務の遂行に関連づけられて定義される。これらの定義ではいずれも Competency は行動として定義されているが、Competency 論では単に目に見える特性だけが対象とされているのではなく、思考能力、価値観、意欲、信念などといった目に見えないものもその射程に入っており、むしろこのような特性こそ重要なものとされている。ただ実際の Competency の評価に当たっては、例えば「分析力」は「種々の情報を利用して入手した種々の情報の中から、業務に有用かつ重要と思われる情報を取捨選択し、整理している」（高木、32 頁）かどうかという行動が対象とされる。そして「分析力」とは、そのような行動から帰納的に抽出される能力とされる（能力は潜在的な保有能力にとどまっている限りそれは存在するとは認められず、何らかの行動として発現して初めてその存在が検証されるという考え方）。

一方教育の分野でも、Competency Based Education（CBE）が注目されつつある。CBE については、二宮、中矢ら（二宮他、2003、2004、2005、2006）の研究があり、それを参照しつつ CBE の国際的な動向やその特徴をまとめると以下のようなものである。もともと CBE は職業教育に関して開発された考え方で、1960 年代後半に職業教育の一つである教員養成（教師教育）プログラムに活用されかなり普及したが、1980 年代に入りあまりにも行動主義的、表面的との批判を受け一時期衰退した。

しかし 1990 年代になると、一方では知識中心の能力観・学力観が見直されその範囲が拡大してきたこと、また他方で教育に対して強く accountability が求められるようになり、どのような人材を社会に排出したかを明確に示す必要が生じたことなどから、米国、豪州、ニュージーランド、スウェーデン、南アフリカなどで、Competency Based Curriculum や Outcome Based Curriculum と呼ばれる教育が導入され、CBE が再度脚光を浴びることとなった。これらは従来のような知識の系列ごとに教科を設けそれを教えるのではなく、目標（身につけるべき Competency）に向けて様々な活動や学習プロセスを組織していくという考え方である。また経済協力開発機構（OECD）も自身が実施している国際学力調査とも関連して、現代人に求められる、Key Competency を定義しようとするプロジェクトも行なっている。

CBE が開発されてから今日まで一貫した基本的な原則は、①成果主義、②職場との関連重視、③観察可能な Competency などであるとされており、先にみたビジネスの世界における Competency の考え方に相通するものがある。

上述のとおり 1990 年代以降盛んになった CBE は、初等中等教育を中心とするものであったが、高等教育においても、必ずしも上記の Competency とまったく同じ概念を使用しているわけではないが、類似の研究として「大学教育の職業的なレリバンス」(小方 1998) を巡る一連の研究が行なわれている。このような研究は量的にはまだ多くないものの、専門職大学院の進展など、高等教育に対し専門家養成への期待と需要が高まる中、重要な研究として認知されつつある。この研究は、従来の「大学教育と雇用」(小方同上、6 頁) との関係(例えば、どの分野の学生をどれだけ排出し、それが産業界の需要にマッチしているかといったいわば量的研究)でなく、「大学教育と仕事」(小方同上、6 頁) との関係(大学教育が学生にどのような能力を身につけさせ、それが企業の求めるものとマッチしているかといった質的研究)に焦点がある。このようなアプローチも本調査研究をデザインするに当たって、大いに参考となった。

<参照文献> (本文中に直接言及しなかったものを含む。)

- ・有川友子 (1988) 「日本留学がもたらしたものー帰国後のインドネシア人の職場での体験ー」 熊本学園大学附属海外事情研究所『海外事情研究』、43-56 頁.
- ・アントワネット・D・ルシア、リチャード・レプシンガー (遠藤仁訳) (2002) 『実践コンピテンシー・モデル』日経 BP 社.
- ・石附実 (1972) 『近代日本の海外留学史』 ミネルヴァ 書房.
- ・伊藤彩子 (2006) 『日本留学の学習・生活体験が職務能力の向上に与える効果に関する研究ーインドネシアの政府行政官の日本留学を事例として』 広島大学大学院・国際協力研究科修士論文.
- ・岩尾寿美子、萩原滋 (1987) 『留学生が見た日本ー10 年目の魅力と批判』サイマル出版会.
- ・同 (1988) 『日本で学ぶ留学生ー社会心理学的分析ー』 勁草社.
- ・太田隆次 (1999) 『アメリカを救った人事革命コンピテンシー』 経営書院.
- ・同 (2002) 『コンピテンシー実務ハンドブック』 日本法令.
- ・小方直幸 (1998) 『大学卒業者の就職と初期のキャリアに関する実証的研究ー大学教育の職業的レリバンスに関する研究ー』 広島大学・大学教育研究センター.
- ・同 (2001) 「コンピテンシーは大学教育を変えるか」 高等教育学会編『高等教育研究』第 4 集、71-91.
- ・小林哲也、星野命編 (1992) 『外国留学効果の評価に関する研究ーフルブライト計画によるアメリカ大学院留学体験者を対象とする調査研究報告ー』 広島大学・大学教育研究センター.
- ・権藤与志夫編 (1988) 『アジア 8 か国における大学教授の日本留学観 (上)』 広島大学・大学教育研究センター.
- ・権藤与志夫編 (1991) 『世界の留学ー現状と課題ー』 東信堂.
- ・黄帆 (1996) 『中国人留学経験者による日本留学とアメリカ留学に関する自己評価』 広島大学大学院・教育学研究科修士論文.
- ・佐藤由利子 (2000a) 「日本の留学生政策のインドネシアにおける影響ー人材養成の観点から」 国際開発学会『国際開発研究』第 11 巻第 2 号、201-219 頁.
- ・同 (2000b) 「日本の留学生政策のインドネシアにおける影響ー親日家養成の観点から」 日本評価学会『日本評価研究』第 2 巻第 2 号、59-78 頁.
- ・同 (2004) 「政策評価マトリックス (PEM) を使った定量的政策評価の事例ーインドネシアとタイに対する日本留学政策評価」 日本評価学会『日本評価研究』第 4 巻第 2 号、39-56 頁.
- ・JICA 地方行政人材プロジェクト (2006) 『インドネシアの公務員制度』.
- ・徐光興、蔭山英順 (1995) 「中国留学生の日本留学と情報に関する研究」『名古屋大学教育学部紀要』第 42 巻、89-106 頁.
- ・高木史朗 (2004) 『コンピテンシー評価と能力開発の実務ー成果主義時代の人材アセスメ

- ント手法と展開方法』日本コンサルタントグループ.
- ・ドミニク・S・ライチン、ローラン・H・サルガニク（立田慶裕監訳）（2006）『キー・コンピテンシー—国際標準の学力をめざして』明石書店.
 - ・二宮皓、金龍哲、中矢礼美、大野亜由未、下村智子、田口明子（2003）「Cross-Cultural Competency に関する基礎研究」中国四国教育学会『教育学研究紀要』第 49 巻、231-242 頁.
 - ・二宮皓、中矢礼美、下村智子、佐藤仁（2004）「Competency-Based Curriculum に関する比較研究」日本カリキュラム学会『カリキュラム研究』第 13 巻、45-59 頁.
 - ・二宮皓、中矢礼美、出口真弓（2005）「Cross-Cultural Competency を育成するカリキュラムの開発と検証」日本カリキュラム学会『カリキュラム研究』第 14 巻、89-102 頁.
 - ・二宮皓、中矢礼美（2006）「国際理解教育カリキュラム開発方法論—Competency Based Curriculum 論からのアプローチ」平成 15 年度～平成 17 年度科学研究費補助金基盤研究（B）（1）研究成果報告書『グローバル時代に対応した国際理解教育のカリキュラム開発に関する理論的・実践的研究』、207-222 頁.
 - ・日本労働機構（1997）『大学院修士課程における社会人教育』調査研究報告書、No. 91.
 - ・原井新介（2002）『キャリア・コンピテンシー・マネジメント』日本経団連出版.
 - ・本田由紀（2001）「社会人教育の現状と課題—修士課程を中心に」高等教育学会編『高等教育研究』第 4 集、93-112.
 - ・三鷹市（2004）『三鷹市人財育成基本方針』.
 - ・村田翼夫（2000）『アジア諸国に対する日本の教育の影響に関する実証的比較研究—教育協力・援助の影響を中心として』1997～1999 年度科学研究費補助金（基盤研究（B）（1））・課題番号 09410065.
 - ・劉国彬（2000）『中国人留学生の帰国後の社会活動に関する研究—日本への留学生とアメリカへの留学生の比較—』広島大学大学院・国際協力研究科修士論文.
 - ・労働省職業能力開発局能力開発課監修・財団法人労働問題リサーチセンター編（1996）『社会人大学生の実像発見—大学院等における社会人の自己啓発の現状及びその支援のあり方—』.
- ・ Mitsubishi Research Institute (2003). *Sector Study for Higher Education in the Republic of Indonesia: Final Report*: Japan Bank for International Cooperation.
 - ・ PT/UFJ Institute Indonesia (2005). *Final Report for the 2nd Study Concerning Graduates from Japanese Universities Who Work in Indonesia*: Japan International Cooperation Agency.

**Questionnaire on the Effectiveness of the Second Professional Human Resources
Development Project (PHRDP-II)**

高等人材開発事業（II）の効果に関する質問票（資料1）

<日本留学生>

このアンケート調査は日本国際協力銀行の委嘱により、広島大学教育開発国際協力研究センターが行なうもので、高等人材開発事業 II（PHRDP-II）により、インドネシア政府派遣留学生として日本留学をしたことのある方を対象としています。この調査結果は、次の高等人材開発事業プログラム改善のために活用されます。このアンケートによって収集された情報は、この調査以外の目的で使用されることはありませんし、個人の情報が公表されることもありません。

以下の項目について、選択肢のあるものは該当するものに○を、それ以外のものについては（ ）内に記入下さい。

<インドネシア留学生>

このアンケート調査は日本国際協力銀行の委嘱により、広島大学教育開発国際協力研究センターが行なうもので、高等人材開発事業 II（PHRDP-II）により、インドネシア政府から留学のため国内の大学に派遣されたことのある方を対象としています。この調査結果は、次の高等人材開発事業プログラム改善のために活用されます。このアンケートによって収集された情報は、この調査以外の目的で使用されることはありませんし、個人の情報が公表されることもありません。

以下の項目について、選択肢のあるものは該当するものに○を、それ以外のものについては（ ）内に記入下さい。

<I> 回答者のプロフィール

<日本、インドネシア留学生共通>

1. 性別・現在の年齢

- (1) 性別： ① 男 ② 女
(2) 年齢：（ ）歳

2. 留学直前の学歴及び所属について

- (1) 最高学歴： ① 学士 ② 修士 ③ 博士 ④ その他（ ）

- (2) 最高学歴を取得した大学等名：()
- (3) 当該学歴の専攻分野名：()
- (4) 所属省庁・部局名：
()
- (5) 役職名：
()
- (6) 等級・号俸 (Golengan) : ① III/a ② III/b ③ III/c ④ III/d ⑤ IV/a ⑥ IV/b
⑦ IV/c ⑧ IV/d ⑨ IV/e
- (7) 役職者階層 (Eselon) : ① IV/b ② IV/a ③ III/b ④ III/a ⑤ II/b ⑥ II/a
⑦ I/b ⑧ I/a ⑨ Non-eselon ⑩ Fungsional

<日本留学生>

3. 事前研修・日本留学について

- (1) インドネシアでの事前研修期間：() ヶ月 (受けなかった人は0と答え、質問(4)にお進み下さい。)
- (2) インドネシアでの事前研修機関名：()
- (3) 主な研修内容 (該当するものにいくつでも) : ① 英語 ② 日本語 ③ その他 (特定して下さい)
- (4) 日本での事前研修期間：() ヶ月 (受けなかった人は0と答え、質問(7)にお進み下さい。)
- (5) 日本での事前研修機関名：()
- (6) 主な研修内容 (該当するものをいくつでも挙げて下さい) : ① 英語 ② 日本語
③ その他 (特定して下さい)
- (7) 日本の大学に入学した (研究生の身分を含む) 時の年齢：() 歳
- (8) 入学した大学・研究科(学部)名：()
- (9) 在学期間 (研究生の経験のある方はその期間も含む) :
(年 月～ 年 月) (年 ヶ月)
- (10) 研究生の経験のある方はその期間：() ヶ月 (研究生だったことがない方は、0とお答え下さい。)
- (11) 在学課程 : ① 学士 ② 修士 ③ 博士 ④ その他 ()
- (12) 取得学位 : ① 学士 ② 修士 ③ 博士 ④ その他 ()
⑤ いずれも取得していない
- (13) 専攻分野名：()
- (14) 主な教授言語 : ① 日本語 ② 英語 ③ 日本語と英語
④ その他 ()

② 国の行政機関以外に転職（あるいは離職）した（質問（4）にお進み下さい）

③ その他（ ）

(3) 行政官としての現在の所属について

2) 所属省庁・部局名：

()

2) 役職名：

()

3) 等級・号俸 (Golengan) : ① III/a ② III/b ③ III/c ④ III/d ⑤ IV/a

⑥ IV/b ⑦ IV/c ⑧ IV/d ⑨ IV/e

4) 役職者階層 (Eselon) : ① IV/b ② IV/a ③ III/b ④ III/a ⑤ II/b ⑥ II/a

⑦ I/b ⑧ I/a ⑨ Non-eselon ⑩ Fungsional

(<II>以下の質問へお進み下さい。)

<日本、インドネシア留学者共通>

(4) 転職（離職）について(2回以上の転職経験者は最初の転職について)

1) 転職（離職）した年：(年 月)

2) 転職（離職）先（目的）：① 民間企業 ② 大学等の教員 ③ 自営業

④ 在学（大学・学部（研究科）等名)

⑤ その他 ()

3) 行政機関を転職（離職した）理由：

()

4) 転職（離職）したことに對し日本留学が何らかの影響を与えているか：

()

(転職（離職）した方々への質問は以上で終わりです。ありがとうございました。)

<日本、インドネシア留学者共通>

<II> 日本留学に対する全体的な評価について

1. あなたにとって今回の日本留学は、全体として有意義であったか。

① 有意義とはいえない ② 少し有意義であった ③ かなり有意義であった

④ きわめて有意義であった ⑤ その他 ()

⑥ 分からない

2. 今回の日本留学によって、あなたの行政官としての能力は全体として向上したか。

① 向上しなかった ② 少し向上した ③ かなり向上した ④ きわめて向上した

⑤ その他 ()

⑥ 分からない

3. 今回の日本留学によって、行政官としての自信が高まったか。
- ① 高まらなかった ② 少し高まった ③ かなり高まった
 ④ きわめて高まった ⑤ その他 ()
 ⑥ 分からない
4. 今回の日本留学により、行政官としての将来の昇進の希望が高まったか。
- ① 高まらなかった ② 少し高まった ③ かなり高まった
 ④ きわめて高まった ⑤ その他 ()
 ⑥ 分からない
5. 全体として、帰国後日本留学で身につけたことが活用されているか。
- ① 活用されていない ② 少し活用されている ③ かなり活用されている
 ④ きわめて活用されている ⑤ その他 ()
 ⑥ 分からない

<III> 日本留学による行政官としての個々の能力の向上

1. 以下に示した資質や能力が留学によりどの程度向上したかについて、選択肢の該当するものに○をつけてお答えください。

<日本、インドネシア留学者共通>

第1グループ (知識)

No	知識	向上度
1	社会・経済、人間、科学等についての幅広い教養	1. 向上しなかった 2. 少し向上した 3. かなり向上した 4. きわめて向上した 5. その他 () 6. 分からない
2	インドネシアの全般的な開発課題や政策課題に関する知識	1. 向上しなかった 2. 少し向上した 3. かなり向上した 4. きわめて向上した 5. その他 () 6. 分からない
3	職務の関係分野に関する基礎的知識・理論・方法論	1. 向上しなかった 2. 少し向上した 3. かなり向上した 4. きわめて向上した 5. その他 () 6. 分からない

No	知識	向上度
4	職務の関係分野に関する最新の知識・理論・方法論	1. 向上しなかった 2. 少し向上した 3. かなり向上した 4. きわめて向上した 5. その他 () 6. 分からない
5	職務の関係分野に関する実務的な知識	1. 向上しなかった 2. 少し向上した 3. かなり向上した 4. きわめて向上した 5. その他 () 6. 分からない

<日本、インドネシア留学者共通>

第2グループ(技能・思考能力)

No	技能・思考能力	向上度
6	科学的な調査・分析能力	1. 向上しなかった 2. 少し向上した 3. かなり向上した 4. きわめて向上した 5. その他 () 6. 分からない
7	論理的な思考能力	1. 向上しなかった 2. 少し向上した 3. かなり向上した 4. きわめて向上した 5. その他 () 6. 分からない
8	情報収集・処理能力	1. 向上しなかった 2. 少し向上した 3. かなり向上した 4. きわめて向上した 5. その他 () 6. 分からない
9	問題解決能力	1. 向上しなかった 2. 少し向上した 3. かなり向上した 4. きわめて向上した 5. その他 () 6. 分からない

No	技能・思考能力	向上度
10	新たな発想や構想をする能力	1. 向上しなかった 2. 少し向上した 3. かなり向上した 4. きわめて向上した 5. その他 () 6. 分からない
11	IT 活用能力	1. 向上しなかった 2. 少し向上した 3. かなり向上した 4. きわめて向上した 5. その他 () 6. 分からない
12	コミュニケーション能力 (発表能力や説明能力を含む)	1. 向上しなかった 2. 少し向上した 3. かなり向上した 4. きわめて向上した 5. その他 () 6. 分からない
13	英語運用能力	1. 向上しなかった 2. 少し向上した 3. かなり向上した 4. きわめて向上した 5. その他 () 6. 分からない
14	日本語運用能力	1. 向上しなかった 2. 少し向上した 3. かなり向上した 4. きわめて向上した 5. その他 () 6. 分からない
15	国際性 (国際的な観点から課題に対処できる諸能力)	1. 向上しなかった 2. 少し向上した 3. かなり向上した 4. きわめて向上した 5. その他 () 6. 分からない
16	リーダーシップ	1. 向上しなかった 2. 少し向上した 3. かなり向上した 4. きわめて向上した 5. その他 () 6. 分からない

No	技能・思考能力	向上度
17	対人交渉・調整力	1. 向上しなかった 2. 少し向上した 3. かなり向上した 4. きわめて向上した 5. その他 () 6. 分からない
18	決断力	1. 向上しなかった 2. 少し向上した 3. かなり向上した 4. きわめて向上した 5. その他 () 6. 分からない
19	学習能力	1. 向上しなかった 2. 少し向上した 3. かなり向上した 4. きわめて向上した 5. その他 () 6. 分からない
20	自己評価能力	1. 向上しなかった 2. 少し向上した 3. かなり向上した 4. きわめて向上した 5. その他 () 6. 分からない
21	時間管理能力	1. 向上しなかった 2. 少し向上した 3. かなり向上した 4. きわめて向上した 5. その他 () 6. 分からない
22	長期的展望	1. 向上しなかった 2. 少し向上した 3. かなり向上した 4. きわめて向上した 5. その他 () 6. 分からない

<日本、インドネシア留学生者共通>

第3グループ（態度）

No	態度	向上度
23	倫理性	1. 向上しなかった 2. 少し向上した 3. かなり向上した 4. きわめて向上した 5. その他 () 6. 分からない
24	規律性	1. 向上しなかった 2. 少し向上した 3. かなり向上した 4. きわめて向上した 5. その他 () 6. 分からない
25	寛容性	1. 向上しなかった 2. 少し向上した 3. かなり向上した 4. きわめて向上した 5. その他 () 6. 分からない
26	責任感	1. 向上しなかった 2. 少し向上した 3. かなり向上した 4. きわめて向上した 5. その他 () 6. 分からない
27	柔軟性	1. 向上しなかった 2. 少し向上した 3. かなり向上した 4. きわめて向上した 5. その他 () 6. 分からない
28	奉仕精神・献身	1. 向上しなかった 2. 少し向上した 3. かなり向上した 4. きわめて向上した 5. その他 () 6. 分からない
29	自信を持って仕事に取り組む態度	1. 向上しなかった 2. 少し向上した 3. かなり向上した 4. きわめて向上した

		5. その他 () 6. 分からない
30	チャレンジ精神	1. 向上しなかった 2. 少し向上した 3. かなり向上した 4. きわめて向上した 5. その他 () 6. 分からない
31	積極性	1. 向上しなかった 2. 少し向上した 3. かなり向上した 4. きわめて向上した 5. その他 () 6. 分からない
32	目標達成志向	1. 向上しなかった 2. 少し向上した 3. かなり向上した 4. きわめて向上した 5. その他 () 6. 分からない
33	好奇心	1. 向上しなかった 2. 少し向上した 3. かなり向上した 4. きわめて向上した 5. その他 () 6. 分からない
34	合意志向	1. 向上しなかった 2. 少し向上した 3. かなり向上した 4. きわめて向上した 5. その他 () 6. 分からない

<日本、インドネシア留学者共通>

第4グループ(価値)

No	価値	向上度
35	グローバル・国際的価値基準重視	1. 向上しなかった 2. 少し向上した 3. かなり向上した 4. きわめて向上した 5. その他 () 6. 分からない
36	インドネシアの国益重視	1. 向上しなかった

		<ul style="list-style-type: none"> 2. 少し向上した 3. かなり向上した 4. きわめて向上した 5. その他 () 6. 分からない
37	地方重視	<ul style="list-style-type: none"> 1. 向上しなかった 2. 少し向上した 3. かなり向上した 4. きわめて向上した 5. その他 () 6. 分からない
38	愛国心	<ul style="list-style-type: none"> 1. 向上しなかった 2. 少し向上した 3. かなり向上した 4. きわめて向上した 5. その他 () 6. 分からない
39	宗教心	<ul style="list-style-type: none"> 1. 向上しなかった 2. 少し向上した 3. かなり向上した 4. きわめて向上した 5. その他 () 6. 分からない
40	アスピレーション (志を持っていること)	<ul style="list-style-type: none"> 1. 向上しなかった 2. 少し向上した 3. かなり向上した 4. きわめて向上した 5. その他 () 6. 分からない
41	仕事中心主義	<ul style="list-style-type: none"> 1. 向上しなかった 2. 少し向上した 3. かなり向上した 4. きわめて向上した 5. その他 () 6. 分からない
42	家族優先	<ul style="list-style-type: none"> 1. 向上しなかった 2. 少し向上した 3. かなり向上した 4. きわめて向上した 5. その他 () 6. 分からない

<日本留学者>

第5グループ(高業績に繋がる外部要因)

No	外部要因	向上度
43	日本に留学していたインドネシアの他の行政官との人脈	1. 向上しなかった 2. 少し向上した 3. かなり向上した 4. きわめて向上した 5. その他 () 6. 分からない
44	日本で出会った行政官以外のインドネシア人との人脈 (政治家、民間企業、学者等)	1. 向上しなかった 2. 少し向上した 3. かなり向上した 4. きわめて向上した 5. その他 () 6. 分からない
45	日本で出会った日本人との人脈 (行政官、政治家、援助機関、民間企業、学者等)	1. 向上しなかった 2. 少し向上した 3. かなり向上した 4. きわめて向上した 5. その他 () 6. 分からない
46	日本で出会った外国人との人脈 (行政官、政治家、援助機関、民間企業、学者等)	1. 向上しなかった 2. 少し向上した 3. かなり向上した 4. きわめて向上した 5. その他 () 6. 分からない

<インドネシア留学者>

第5グループ(高業績に繋がる外部要因)

No	外部要因	向上度
43	インドネシアの他の行政官との人脈	1. 向上しなかった 2. 少し向上した 3. かなり向上した 4. きわめて向上した 5. その他 () 6. 分からない
44	行政官以外のインドネシア人との人脈 (政治家、民間企業、学者等)	1. 向上しなかった 2. 少し向上した 3. かなり向上した 4. きわめて向上した 5. その他 ()

		6. 分からない
45	外国人との人脈（行政官、政治家、援助機関、民間企業、学者等）	1. 向上しなかった 2. 少し向上した 3. かなり向上した 4. きわめて向上した 5. その他（ ） 6. 分からない

<日本、インドネシア留学者共通>

2. 留学によって、もっとも向上したものを上記から3項目挙げてください。

- (1)
- (2)
- (3)

3. 留学によって、あまり向上しなかったものを上記から3項目挙げてください。

- (1)
- (2)
- (3)

<IV>職務遂行上の有用性について

1. 以下に示した資質や能力が、行政官としてのあなたの職務遂行上どの程度有用かについて、選択肢の該当するものに○をつけてお答えください。

<日本、インドネシア留学者共通>

第1グループ（知識）

No	知識	有用度
1	社会・経済、人間、科学等についての幅広い教養	1. 有用ではない 2. 少し有用である 3. かなり有用である 4. きわめて有用である 5. その他（ ） 6. 分からない
2	インドネシアの全般的な開発課題や政策課題に関する知識	1. 有用ではない 2. 少し有用である 3. かなり有用である 4. きわめて有用である 5. その他（ ） 6. 分からない
3	職務の関係分野に関する基礎的知識・理論・方法論	1. 有用ではない 2. 少し有用である 3. かなり有用である

No	知識	有用度
		4. きわめて有用である 5. その他 () 6. 分からない
4	職務の関係分野に関する最新の知識・理論・方法論	1. 有用ではない 2. 少し有用である 3. かなり有用である 4. きわめて有用である 5. その他 () 6. 分からない
5	職務の関係分野に関する実務的な知識	1. 有用ではない 2. 少し有用である 3. かなり有用である 4. きわめて有用である 5. その他 () 6. 分からない

<日本、インドネシア留学者共通>

第2グループ(技能・思考能力)

No	技能・思考能力	向上度
6	科学的な調査・分析能力	1. 有用ではない 2. 少し有用である 3. かなり有用である 4. きわめて有用である 5. その他 () 6. 分からない
7	論理的な思考能力	1. 有用ではない 2. 少し有用である 3. かなり有用である 4. きわめて有用である 5. その他 () 6. 分からない
8	情報収集・処理能力	1. 有用ではない 2. 少し有用である 3. かなり有用である 4. きわめて有用である 5. その他 () 6. 分からない
9	問題解決能力	1. 有用ではない 2. 少し有用である

No	技能・思考能力	向上度
		3. かなり有用である 4. きわめて有用である 5. その他 () 6. 分からない
10	新たな発想や構想をする能力	1. 有用ではない 2. 少し有用である 3. かなり有用である 4. きわめて有用である 5. その他 () 6. 分からない
11	IT 活用能力	1. 有用ではない 2. 少し有用である 3. かなり有用である 4. きわめて有用である 5. その他 () 6. 分からない
12	コミュニケーション能力（発表能力や説明能力を含む）	1. 有用ではない 2. 少し有用である 3. かなり有用である 4. きわめて有用である 5. その他 () 6. 分からない
13	英語運用能力	1. 有用ではない 2. 少し有用である 3. かなり有用である 4. きわめて有用である 5. その他 () 6. 分からない
14	日本語運用能力	1. 有用ではない 2. 少し有用である 3. かなり有用である 4. きわめて有用である 5. その他 () 6. 分からない
15	国際性（国際的な観点から課題に対処できる諸能力）	1. 有用ではない 2. 少し有用である 3. かなり有用である 4. きわめて有用である 5. その他 () 6. 分からない
16	リーダーシップ	1. 有用ではない 2. 少し有用である

No	技能・思考能力	向上度
		3. かなり有用である 4. きわめて有用である 5. その他 () 6. 分からない
17	対人交渉・調整力	1. 有用ではない 2. 少し有用である 3. かなり有用である 4. きわめて有用である 5. その他 () 6. 分からない
18	決断力	1. 有用ではない 2. 少し有用である 3. かなり有用である 4. きわめて有用である 5. その他 () 6. 分からない
19	学習能力	1. 有用ではない 2. 少し有用である 3. かなり有用である 4. きわめて有用である 5. その他 () 6. 分からない
20	自己評価能力	1. 有用ではない 2. 少し有用である 3. かなり有用である 4. きわめて有用である 5. その他 () 6. 分からない
21	時間管理能力	1. 有用ではない 2. 少し有用である 3. かなり有用である 4. きわめて有用である 5. その他 () 6. 分からない
22	長期的展望	1. 有用ではない 2. 少し有用である 3. かなり有用である 4. きわめて有用である 5. その他 () 6. 分からない

<日本、インドネシア留学者共通>

第3グループ(態度)

No	態度	向上度
23	倫理性	1. 有用ではない 2. 少し有用である 3. かなり有用である 4. きわめて有用である 5. その他 () 6. 分からない
24	規律性	1. 有用ではない 2. 少し有用である 3. かなり有用である 4. きわめて有用である 5. その他 () 6. 分からない
25	寛容性	1. 有用ではない 2. 少し有用である 3. かなり有用である 4. きわめて有用である 5. その他 () 6. 分からない

<日本、インドネシア留学者共通>

第4グループ(価値)

No	価値	向上度
35	グローバル・国際的価値基準重視	1. 有用ではない 2. 少し有用である 3. かなり有用である 4. きわめて有用である 5. その他 () 6. 分からない
36	インドネシアの国益重視	1. 有用ではない 2. 少し有用である 3. かなり有用である 4. きわめて有用である 5. その他 () 6. 分からない
37	地方重視	1. 有用ではない 2. 少し有用である 3. かなり有用である 4. きわめて有用である 5. その他 ()

		6. 分からない
38	愛国心	1. 有用ではない 2. 少し有用である 3. かなり有用である 4. きわめて有用である 5. その他 () 6. 分からない
39	宗教心	1. 有用ではない 2. 少し有用である 3. かなり有用である 4. きわめて有用である 5. その他 () 6. 分からない
40	アスピレーション (志を持っていること)	1. 有用ではない 2. 少し有用である 3. かなり有用である 4. きわめて有用である 5. その他 () 6. 分からない
41	仕事中心主義	1. 有用ではない 2. 少し有用である 3. かなり有用である 4. きわめて有用である 5. その他 () 6. 分からない
42	家族優先	1. 有用ではない 2. 少し有用である 3. かなり有用である 4. きわめて有用である 5. その他 () 6. 分からない

<日本留学者>

第5グループ(高業績に繋がる外部要因)

No	外部要因	向上度
43	日本に留学していたインドネシアの他の行政官との人脈	1. 有用ではない 2. 少し有用である 3. かなり有用である 4. きわめて有用である 5. その他 () 6. 分からない

44	日本で出会った行政官以外のインドネシア人との人脈（政治家、民間企業、学者等）	1. 有用ではない 2. 少し有用である 3. かなり有用である 4. きわめて有用である 5. その他（ ） 6. 分からない
45	日本で出会った日本人との人脈（行政官、政治家、援助機関、民間企業、学者等）	1. 有用ではない 2. 少し有用である 3. かなり有用である 4. きわめて有用である 5. その他（ ） 6. 分からない
46	日本で出会った外国人との人脈（行政官、政治家、援助機関、民間企業、学者等）	1. 有用ではない 2. 少し有用である 3. かなり有用である 4. きわめて有用である 5. その他（ ） 6. 分からない

<インドネシア留学者>

第5グループ(高業績に繋がる外部要因)

No	外部要因	向上度
43	インドネシアの他の行政官との人脈	1. 有用ではない 2. 少し有用である 3. かなり有用である 4. きわめて有用である 5. その他（ ） 6. 分からない
44	行政官以外のインドネシア人との人脈（政治家、民間企業、学者等）	1. 有用ではない 2. 少し有用である 3. かなり有用である 4. きわめて有用である 5. その他（ ） 6. 分からない
45	外国人との人脈（行政官、政治家、援助機関、民間企業、学者等）	1. 有用ではない 2. 少し有用である 3. かなり有用である 4. きわめて有用である 5. その他（ ） 6. 分からない

＜日本、インドネシア留学者共通＞

2. もっとも有用なものを上記から3項目挙げてください。

(1)

(2)

(3)

3. あまり有用でないものを上記から3項目挙げてください。

(1)

(2)

(3)

<V> 留学中の様々な活動への参加と行政官能力の向上

以下に示す留学中の様々な活動について、選択肢の該当するものに○をつけてお答えください。

<日本、インドネシア留学者共通>

第1グループ(教員や大学主導による活動)

No	活動	貢献度
1	講義	1. 行政官の能力向上に特に貢献したとはいえない 2. 少し貢献した 3. かなり貢献した 4. きわめて貢献した 5. そのような活動に参加したことはない 6. その他() 7. 分からない
2	ゼミナール	1. 行政官の能力向上に特に貢献したとはいえない 2. 少し貢献した 3. かなり貢献した 4. きわめて貢献した 5. そのような活動に参加したことはない 6. その他() 7. 分からない
3	実習・実験 (フィールド調査を含む)	1. 行政官の能力向上に特に貢献したとはいえない 2. 少し貢献した 3. かなり貢献した 4. きわめて貢献した 5. そのような活動に参加したことはない 6. その他() 7. 分からない
4	インターンシップ	1. 行政官の能力向上に特に貢献したとはいえない 2. 少し貢献した 3. かなり貢献した 4. きわめて貢献した 5. そのような活動に参加したことはない 6. その他() 7. 分からない
5	教員による個別指導	1. 行政官の能力向上に特に貢献したとはいえない 2. 少し貢献した 3. かなり貢献した

		4. きわめて貢献した 5. そのような活動に参加したことはない 6. その他 () 7. 分からない
6	教員が行なう研究活動への参加・補佐	1. 行政官の能力向上に特に貢献したとはいえない 2. 少し貢献した 3. かなり貢献した 4. きわめて貢献した 5. そのような活動に参加したことはない 6. その他 () 7. 分からない
7	授業補佐・マスター学生の指導 (ティーチング・アシスタント)	1. 行政官の能力向上に特に貢献したとはいえない 2. 少し貢献した 3. かなり貢献した 4. きわめて貢献した 5. そのような活動に参加したことはない 6. その他 () 7. 分からない
8	その他 (特定して下さい)	

<日本、インドネシア留学者共通>

第2グループ (自主的なアカデミックな活動)

No	活動	貢献度
9	図書館やインターネット等を通じた資料検索・収集	1. 行政官の能力向上に特に貢献したとはいえない 2. 少し貢献した 3. かなり貢献した 4. きわめて貢献した 5. そのような活動に参加したことはない 6. その他 () 7. 分からない
10	参考文献等資料解説	1. 行政官の能力向上に特に貢献したとはいえない 2. 少し貢献した 3. かなり貢献した 4. きわめて貢献した 5. そのような活動に参加したことはない 6. その他 ()

		7. 分からない
11	レポート・論文の作成	1. 行政官の能力向上に特に貢献したとはいえない 2. 少し貢献した 3. かなり貢献した 4. きわめて貢献した 5. そのような活動に参加したことはない 6. その他 () 7. 分からない
12	学内の勉強会・研究会の組織あるいはそれへの参加	1. 行政官の能力向上に特に貢献したとはいえない 2. 少し貢献した 3. かなり貢献した 4. きわめて貢献した 5. そのような活動に参加したことはない 6. その他 () 7. 分からない
13	学外の研究会・学会の組織あるいはそれへの参加	1. 行政官の能力向上に特に貢献したとはいえない 2. 少し貢献した 3. かなり貢献した 4. きわめて貢献した 5. そのような活動に参加したことはない 6. その他 () 7. 分からない
14	その他 (特定して下さい)	

<日本留学者>

第3グループ (カリキュラム以外の自主的な知識・技能開発活動)

No	活動	貢献度
15	英語学習	1. 行政官の能力向上に特に貢献したとはいえない 2. 少し貢献した 3. かなり貢献した 4. きわめて貢献した 5. そのような活動に参加したことはない 6. その他 () 7. 分からない
16	日本語学習	1. 行政官の能力向上に特に貢献したとはいえない 2. 少し貢献した

		3. かなり貢献した 4. きわめて貢献した 5. そのような活動に参加したことはない 6. その他 () 7. 分からない
17	コンピュータなど IT に関する学習	1. 行政官の能力向上に特に貢献したとはいえない 2. 少し貢献した 3. かなり貢献した 4. きわめて貢献した 5. そのような活動に参加したことはない 6. その他 () 7. 分からない
18	その他（特定して下さい）の学習	

<インドネシア留学者>

第3グループ（カリキュラム以外の自主的な知識・技能開発活動）

No	活動	貢献度
15	英語学習	1. 行政官の能力向上に特に貢献したとはいえない 2. 少し貢献した 3. かなり貢献した 4. きわめて貢献した 5. そのような活動に参加したことはない 6. その他 () 7. 分からない
16	その他の言語の学習（言語を特定してください）	1. 行政官の能力向上に特に貢献したとはいえない 2. 少し貢献した 3. かなり貢献した 4. きわめて貢献した 5. そのような活動に参加したことはない 6. その他 () 7. 分からない
17	コンピュータなど IT に関する学習	1. 行政官の能力向上に特に貢献したとはいえない 2. 少し貢献した 3. かなり貢献した 4. きわめて貢献した 5. そのような活動に参加したことはない 6. その他 ()

		7. 分からない
18	その他（特定して下さい）の学習	

<日本留学者>

第4グループ（課外活動等）

No	活動	貢献度
19	日本人学生との交流や共同活動	1. 行政官の能力向上に特に貢献したとはいえない 2. 少し貢献した 3. かなり貢献した 4. きわめて貢献した 5. そのような活動に参加したことはない 6. その他（ ） 7. 分からない
20	インドネシア人留学生との交流や共同活動	1. 行政官の能力向上に特に貢献したとはいえない 2. 少し貢献した 3. かなり貢献した 4. きわめて貢献した 5. そのような活動に参加したことはない 6. その他（ ） 7. 分からない
21	他の国の留学生との交流や共同活動	1. 行政官の能力向上に特に貢献したとはいえない 2. 少し貢献した 3. かなり貢献した 4. きわめて貢献した 5. そのような活動に参加したことはない 6. その他（ ） 7. 分からない
22	地域住民との交流や共同活動	1. 行政官の能力向上に特に貢献したとはいえない 2. 少し貢献した 3. かなり貢献した 4. きわめて貢献した 5. そのような活動に参加したことはない 6. その他（ ） 7. 分からない
23	日本での日常生活	1. 行政官の能力向上に特に貢献したとはいえない 2. 少し貢献した

		3. かなり貢献した 4. きわめて貢献した 5. そのような活動に参加したことはない 6. その他 () 7. 分からない
24	日本国内の旅行	1. 行政官の能力向上に特に貢献したとはいえない 2. 少し貢献した 3. かなり貢献した 4. きわめて貢献した 5. そのような活動に参加したことはない 6. その他 () 7. 分からない
25	その他 (特定して下さい)	

<インドネシア留学生者>

第4グループ (課外活動等)

No	活動	貢献度
19	インドネシアの学生との交流・共同活動	1. 行政官の能力向上に特に貢献したとはいえない 2. 少し貢献した 3. かなり貢献した 4. きわめて貢献した 5. そのような活動に参加したことはない 6. その他 () 7. 分からない
20	地域住民との交流・共同活動	1. 行政官の能力向上に特に貢献したとはいえない 2. 少し貢献した 3. かなり貢献した 4. きわめて貢献した 5. そのような活動に参加したことはない 6. その他 () 7. 分からない
21	外国人 (学生を含む) との交流や共同活動	1. 行政官の能力向上に特に貢献したとはいえない 2. 少し貢献した 3. かなり貢献した 4. きわめて貢献した

		5. そのような活動に参加したことはない 6. その他 () 7. 分からない
22	その他 (特定して下さい)	

<日本、インドネシア留学者共通>

<VI> 高等人材開発事業 (II) それ自身に関するご意見・ご感想をご自由にお書き下さい。

例えば、「原則として日本に留学先が限定されていたこと」「留学者の選考方法」「留学支援サービス」「インドネシアや日本での事前研修」「留学先大学の対応」「日本留学生の活用のされ方」などについてです。もちろん、これに限られるものではありません。

差し支えなければ、以下についてもご記入下さい。(個人情報決して公開しません。)

お名前：

住所：

電子メール・アドレス

電話及び Fax 番号

ありがとうございました。

(資料2)

I 留学についての全体的な評価 (平均値)

	BPPT(T)	BAPPENAS(S)	MOF(F)	日本留学計	インドネシア留学
1. 意義	3.56(S, F)	3.79(T)	3.91(T)	3.73**	3.9**
2. 能力の向上	3.32(F)	3.37	3.58(T)	3.41	3.47
3. 行政官としての自信	3.42(F)	3.57	3.74(T)	3.56	3.51
4. 昇進希望	3.16(F)	3.19	3.45(T)	3.26**	3.06**
5. 身につけたことの活用	3.03	3.12	3.14	3.09	3.15

(注)

1. 各回答に与えたスコアは以下のとおり。

「1」: 1有意義とはいえない、2少し、3かなり、4きわめて

「2」: 1向上しなかった、2少し、3かなり、4きわめて

「3」: 1高まらなかった、2少し、3かなり、4きわめて

「4」: 1高まらなかった、2少し、3かなり、4きわめて

「5」: 1活用されていない、2少し、3かなり、4きわめて

2. BPPT、BAPPENAS、MOFの数値の右側()内のT、S、Fは、5%以下の水準でそれぞれの機関と有意な差があることを示す。

3. 日本留学及びインドネシア留学の数値の右の印、「+」、「*」及び「**」はそれぞれ、10%、5%、1%以下の水準で有意な差があることを示す。

II 有用性(平均値)

	BPPT(T)	BAPPENAS(S)	MOF(F)	日本留学計	インドネシア留学
(知識)	3.37(F)	3.34(F)	3.6(T, S)	3.43	3.43
1. 幅広い教養	3.37(F)	3.47	3.67(T)	3.49	3.57
2. インドネシアの開発等	2.93(S, F)	3.29(T)	3.42(T)	3.18**	3.45**
3. 職務関連分野の基礎的知識・理論・方法	3.58	3.37	3.56	3.51*	3.34*
4. 職務関連分野の最新の知識・理論・方法	3.44	3.23(F)	3.6(S)	3.43	3.32
5. 職務関連分野の実務的な知識	3.49(F)	3.37(F)	3.74(T, S)	3.53	3.44
(技能・思考力)	3.46(F) (3.51)	3.48 (F)(3.55)	3.64(T, S) (3.72)	3.52† (3.59)	3.44† (3.52)
6. 科学的な調査・分析能力	3.71	3.6	3.74	3.69†	3.54†
7. 論理的な思考能力	3.68	3.71	3.81	3.73	3.78
8. 情報収集・処理能力	3.64	3.53	3.74	3.64	3.56
9. 問題解決能力	3.72	3.6(F)	3.84(S)	3.72	3.69
10. 新たな発想や構想をする力	3.61	3.51(F)	3.74(S)	3.62*	3.45*
11. IT活用能力	3.6	3.6	3.63	3.61	3.56
12. コミュニケーション能力	3.66(F)	3.73	3.89(T)	3.74†	3.63†
13. 英語運用能力	3.17(S, F)	3.47(T)	3.6(T)	3.39**	3.03**
14. 日本語運用能力	3.05(S, F)	2.56(T)	2.4(T)	2.72**	2.06**
15. 国際性	3.15(F)	3.42	3.58(T)	3.36**	2.77**
16. リーダーシップ	3.29(F)	3.47	3.63(T)	3.44	3.6
17. 対人交渉・調整力	3.34(F)	3.56	3.72(T)	3.52	3.51
18. 決断力	3.41(F)	3.56(F)	3.81(T, S)	3.58	3.63
19. 学習能力	3.56(F)	3.51(F)	3.77(T, S)	3.61†	3.48†
20. 自己評価能力	3.37	3.26	3.47	3.37	3.37
21. 時間管理能力	3.44(F)	3.49(F)	3.74(T, S)	3.54	3.51
22. 長期展望	3.58	3.63	3.7	3.63	3.57
(態度)	3.5(F)	3.53(F)	3.69(T, S)	3.57	3.48
23. 倫理性	3.56	3.65	3.74	3.64	3.86
24. 規律性	3.64(F)	3.72	3.86(T)	3.73**	3.53**
25. 寛容性	3.4	3.35	3.56	3.43	3.37
26. 責任感	3.61(F)	3.65(F)	3.86(T, S)	3.7	3.65
27. 柔軟性	3.29(F)	3.26(F)	3.51(T, S)	3.35	3.31
28. 奉仕精神・献身	3.22(F)	3.44	3.6(T)	3.4	3.35
29. 自信を持って仕事に取り組む態度	3.63	3.7	3.81	3.7	3.6
30. チャレンジ精神	3.58(F)	3.6	3.79(T)	3.65	3.54
31. 積極性	3.53	3.53	3.64	3.57	3.87
32. 目標達成志向	3.63	3.57	3.67	3.62	3.56
33. 好奇心	3.54	3.51	3.62	3.56	3.53
34. 合意志向	3.36(F)	3.4	3.58(T)	3.44	3.32
(価値)	3.28(F)	3.41	3.55(T)	3.4	3.37
35. グローバル・国際的基準重視	3.32	3.35	3.56	3.4**	3.07**
36. インドネシアの国益重視	3.29(S, F)	3.51(T, F)	3.79(T, S)	3.5	3.37
37. 地方重視	2.69(S)	3.35(T, F)	2.95(S)	2.97**	3.31**
38. 愛国心	3.32(S, F)	3.56(T)	3.72(T)	3.51	3.45

39. 宗教心	3.3	3.21	3.51	3.34	3.49
40. アスピレーション	3.62	3.63	3.81	3.68†	3.55†
41. 仕事中心主義	3.44	3.44	3.6	3.49	3.42
42. 家族中心主義	3.17	3.23	3.38	3.25	3.3
(その他)	2.96(F)	3.06	3.28(T)	3.08	3.17
43. インドネシアの行政官との人脈形成	3.03(F)	3.14(F)	3.62(T、S)	3.24†	3.41†
44. 行政官以外のインドネシア人との人脈形成	2.93(F)	3.02(F)	3.33(T、S)	3.08	3.2
45. 日本人との人脈形成	3.04	3.14	3.16	3.11	N. A
46. 外国人との人脈形成	2.81	2.95	3.02	2.91	2.8

(注)

- 各回答に与えたスコアは以下のとおり。1有用でない、2少し有用、3かなり有用、4きわめて有用
- BPPT、BAPPENAS、MOFの数値の右側()内のT、S、Fは、5%以下の水準でそれぞれの機関と有意な差があることを示す。
- 日本留学及びインドネシア留学の数値の右の印、「†」、「*」及び「**」はそれぞれ、10%、5%、1%の水準で有意な差があることを示す。
- (技能・思考力)の()の数値は「13 英語運用能力」及び「14 日本語運用能力」を除いたもの。
- (その他)については、日本留学とインドネシア留学とで項目が違うので、項目全体の平均の差の検定は行っていない。

Ⅲ 能力の向上 (平均値)

	BPPT(T)	BAPPENAS(S)	MOF(F)	日本留学計	インドネシア留学
(知識)	3.16(F)	3.31	3.39(T)	3.27	3.26
1. 幅広い教養	3.31(S、F)	3.52(T)	3.74(T)	3.5	3.48
2. インドネシアの開発等	2.59(S、F)	3.17(T)	3.26(T)	2.96**	3.42**
3. 職務関連分野の基礎的知識・理論・方法	3.47	3.36	3.3	3.39**	3.16**
4. 職務関連分野の最新の知識・理論・方法	3.24	3.29	3.37	3.29*	3.1*
5. 職務関連分野の実務的な知識	3.16	3.24	3.3	3.22	3.12
(技能・思考力)	3.26(S、F) (3.30)	3.42 (T)(3.48)	3.45(T) (3.54)	3.36**(3.42)	3.16**(3.28)
6. 科学的な調査・分析能力	3.58	3.63	3.63	3.61*	3.45*
7. 論理的な思考能力	3.49(S、F)	3.7(T)	3.79(T)	3.64†	3.52†
8. 情報収集・処理能力	3.41(F)	3.49	3.65(T)	3.5	3.53
9. 問題解決能力	3.39(F)	3.51	3.65(T)	3.5	3.42
10. 新たな発想や構想をする力	3.34	3.49	3.49	3.43	3.4
11. IT活用能力	3.33	3.4	3.4	3.37**	3.07**
12. コミュニケーション能力	3.37(S、F)	3.63(T)	3.63(T)	3.52**	3.32**
13. 英語運用能力	2.51(S、F)	3.42(T)	3.4(T)	3.04**	2.58**
14. 日本語運用能力	3.42(S、F)	2.56(T、F)	2.16(T、S)	2.78**	1.22**
15. 国際性	3.16(S、F)	3.55(T)	3.48(T)	3.37**	2.49**
16. リーダーシップ	2.96(F)	3.21	3.42(T)	3.17	3.15
17. 対人交渉・調整力	2.95(S、F)	3.4(T)	3.44(T)	3.23	3.26
18. 決断力	3.15(S、F)	3.47(T)	3.6(T)	3.38	3.36
19. 学習能力	3.41	3.49	3.6	3.49	3.38
20. 自己評価能力	3.22	3.24	3.33	3.26	3.21
21. 時間管理能力	3.27	3.28	3.44	3.32*	3.09*
22. 長期展望	3.47(S)	3.7(T)	3.6	3.58†	3.45†
(態度)	3.31(S、F)	3.52(T)	3.53(T)	3.43*	3.32*
23. 倫理性	3.33(S)	3.58(T)	3.51	3.46*	3.24*
24. 規律性	3.46	3.56	3.63	3.54**	3.08**
25. 寛容性	3.25(S)	3.51(T)	3.49	3.4	3.3
26. 責任感	3.44(F)	3.63	3.67(T)	3.57†	3.43†
27. 柔軟性	3.07(S)	3.33(T)	3.3	3.21	3.31
28. 奉仕精神・献身	3	3.21	3.19	3.12	3.18
29. 自信を持って仕事に取り組む態度	3.36(S、F)	3.68(T)	3.71(T)	3.56	3.54
30. チャレンジ精神	3.47(S、F)	3.71(T)	3.7(T)	3.61**	3.37**
31. 積極性	3.33	3.5	3.52	3.44*	3.28*
32. 目標達成志向	3.4	3.58	3.53	3.49	3.46
33. 好奇心	3.39(S)	3.67(T)	3.52	3.51	3.49
34. 合意志向	3.24	3.28	3.47	3.32	3.26
(価値)	3.18(S、F)	3.39(T)	3.42(T)	3.32	3.29
35. グローバル・国際的基準重視	3.32(F)	3.48	3.58(T)	3.44**	3.22**
36. インドネシアの国益重視	3.31(F)	3.51	3.7(T)	3.49	3.38
37. 地方重視	2.64(S)	3.26(T)	2.98	2.93**	3.71**
38. 愛国心	3.14(S、T)	3.57(T)	3.53(T)	3.39	3.21

39. 宗教心	3.14	3.07	3.23	3.14	3.2
40. アスピレーション	3.48	3.6	3.63	3.56	3.49
41. 仕事中心主義	3.36	3.47	3.37	3.4	3.33
42. 家族中心主義	3.02	3.21	3.28	3.15	3.21
(その他)	2.6(F)	2.77	2.85(T)	2.72	2.77
43. インドネシアの行政官との人脈形成	2.83(F)	2.98	3.26(T)	3**	3.25**
44. 行政官以外のインドネシア人との人脈形成	2.63	2.61	2.79	2.67**	2.93**
45. 日本人との人脈形成	2.62	2.83	2.77	2.73	N. A.
46. 外国人との人脈形成	2.33	2.69	2.56	2.51**	1.99**

(注)

- 各回答に与えたスコアは以下のとおり。1向上しなかった、2少し向上、3かなり向上、4きわめて向上
- BPPT、BAPPENAS、MOFの数値の右側()内のT、S、Fは、5%以下の水準でそれぞれの機関と有意な差があることを示す。
- 日本留学及びインドネシア留学の数値の右の印、「+」、「*」及び「**」はそれぞれ、10%、5%、1%の水準で有意な差があることを示す。
- (技能・思考力)の()の数値は「13 英語運用能力」及び「14 日本語運用能力」を除いたもの。
- (その他)については、日本留学とインドネシア留学とで項目が違うので、項目全体の平均の差の検定は行っていない。

IV 大学での活動の能力向上への貢献度(平均値)

	BPPT(T)	BAPPENAS(S)	MOF(F)	日本留学計	インドネシア留学
(教員や大学主導の活動の能力向上への貢献度)	3.33(F)	3.49	3.62(T)	3.46**	3.26**
1. 講義	2.92(S, F)	3.4(T, F)	3.72(T, S)	3.3**	3.56**
2. セミナール	3.45(F)	3.62	3.7(T)	3.57**	3.28**
3. 実習・実験	3.63	3.55	3.58	3.59**	3.37**
4. インターンシップ	3.3	3.42	3.54	3.4	3.26
5. 教員による個別指導	3.53	3.63	3.72	3.62**	3.27**
6. 教員の研究活動への参加・補佐	3.49	3.27	3.46	3.43**	2.9**
7. ティ칭ング・アシスタント	3.07	3.27	3.35	3.19**	2.77**
(自主的なアカデミックナ活動)	3.64	3.64	3.73	3.67**	3.53**
9. 資料検索・収集	3.69(F)	3.79	3.88(T)	3.78	3.67
10. 参考文献等資料解読	3.72	3.81	3.86	3.79	3.76
11. レポート・論文作成	3.76	3.69(F)	3.88(S)	3.78	3.73
12. 学内の勉強会組織・参加	3.59	3.54	3.63	3.58**	3.29**
13. 学外の勉強会組織・参加	3.42	3.39	3.35	3.39**	3.09**
(カリキュラム以外の自主的な知識・技能開発)	3.25	3.4	3.38	3.3	2.98
15. 英語学習	3.17(S, F)	3.76(T)	3.71(T)	3.51**	3.13**
16. 日本語学習	3.14(F)	2.88	2.69(T)	2.93	N. A.
16'. その他の言語の学習	N. A.	N. A.	N. A.	N. A.	2.37
17. ITに関する学習	3.38(S, F)	3.62(T)	3.69(T)	3.54	3.44
(課外活動等)					
○日本留学者	3.08(F)	3.25	3.35(T)	3.21	
19. 日本人学生との交流・共同活動	3.1	3.21	3.29	3.19	
20. インドネシア留学生との交流・共同活動	3.19(F)	3.29	3.48(T)	3.3	
21. 他の国の留学生との交流・共同活動	2.98(F)	3.21	3.4(T)	3.18	
22. 地域住民との交流・共同活動	2.76	2.76	2.95	2.81	
23. 日本での日常生活	3.39	3.6	3.51	3.49	
24. 日本国内の旅行	3.05(S, F)	3.46(T)	3.37(T)	3.27	

	BPPT(T)	BAPPENAS(S)	MOF(F)	日本留学計	インドネシア留学
○インドネシア留学者					2.85
19. インドネシア学生との交流・共同活動					3.26
20. 地域住民との交流・共同活動					2.91
21. 外国人との交流や共同活動					2.38

(注)

- 各回答に与えたスコアは以下のとおり。1貢献していない/参加したことはない、2少し貢献、3かなり貢献、4きわめて貢献
- BPPT、BAPPENAS、MOFの数値の右側()内のT、S、Fは、5%以下の水準でそれぞれの機関と有意な差があることを示す。
- 日本留学及びインドネシア留学の数値の右の印、「+」、「*」及び「**」はそれぞれ、10%、5%、1%の水準で有意な差があることを示す。
- (カリキュラム以外の自主的な知識・技能開発)と(課外活動等)については、日本留学とインドネシア留学とで項目が違うので、項目全体の平均の差の検定は行っていない。

能力の向上と留学中の活動の相関関係(資料3)

		講義	ゼミナール	実験・実習	インターンシップ	個別指導	研究活動への参加・補佐	授業補助	資料検索・収集	文献解読	レポート・論文	学内勉強会	学外勉強会
(知識)													
1. 幅広い教養	日本	0.448**	0.188*	0.144	0.219*	0.251**	0.244*	0.296**	0.246**	0.272**	0.302**	0.198*	0.290**
	インドネシア	0.278**	0.105	0.101	0.121	0.098	0.168	0.186	0.021	-0.016	0.047	0.083	0.123
2. インドネシアの開発等	日本	0.313**	0.310**	0.088	0.166	0.13	0.138	0.089	0.223**	0.179*	0.148	0.266**	0.180*
	インドネシア	0.246*	0.139	0.059	0.057	0.172	0.251	0.413**	0.02	0.089	0.214*	0.145	0.039
3. 職務関連分野の基礎的知識・理論・方法	日本	0.244**	0.236**	0.260**	0.272**	0.106	0.376**	0.234*	0.03	0.184*	0.239**	0.369**	0.265**
	インドネシア	0.09	0.115	0.2	-0.087	0.096	0.142	0.145	0.098	0.204	0.179	0.008	0.08
4. 職務関連分野の最新の知識・理論・方法	日本	0.317**	0.327**	0.154	0.113	0.219**	0.340**	0.219*	0.137	0.106	0.164	0.176*	0.139
	インドネシア	-0.091	0.045	0.047	-0.158	0.112	0.082	0.033	0.144	0.086	0.094	0.077	0.122
5. 職務関連分野の実務的な知識	日本	0.257**	0.310**	0.275**	0.165	0.252**	0.276**	0.219*	0.249**	0.189*	0.209*	0.14	0.042
	インドネシア	0.16	0.239*	0.219*	0.145	0.218*	0.104	0.174	0.089	0.215*	0.257*	0.118	0.036

(技能・思考力)													
6. 科学的な調査・分析能力	日本	0.176*	0.165*	0.213*	0.152	0.095	0.352**	0.421**	0.175*	0.156	0.268**	0.208*	0.173*
	インドネシア	0.199	0.203	0.136	-0.006	0.065	0.095	0.057	0.269**	0.221*	0.314**	0.24*	0.072
7. 論理的な思考能力	日本	0.328**	0.235**	0.304**	0.247**	0.281**	0.441**	0.471**	0.257**	0.274**	0.328**	0.218**	0.178*
	インドネシア	0.112	0.244*	0.051	-0.014	0.183	0.172	0.101	0.267*	0.07	0.228*	0.294**	0.205
8. 情報収集・処理能力	日本	0.300**	0.284**	0.439**	0.259**	0.261**	0.261**	0.459**	0.240**	0.235**	0.360**	0.202*	0.163
	インドネシア	0.21*	0.319**	0.252*	0.062	0.214*	0.386**	0.215	0.207*	0.354**	0.278**	0.353**	0.358**
9. 問題解決能力	日本	0.256**	0.230**	0.318**	0.211*	0.222**	0.345**	0.446**	0.210*	0.231**	0.310**	0.231**	0.184*
	インドネシア	0.316**	0.266*	0.2	0.085	0.108	0.221	0.032	0.156	0.216*	0.17	0.143	0.168
10. 新たな発想や構想をする力	日本	0.288*	0.161	0.363**	0.233**	0.155	0.186	0.318**	0.168*	0.222*	0.265**	0.256**	0.224**
	インドネシア	0.097	0.260*	0.171	0.224*	0.141	0.055	-0.135	0.112	0.072	0.077	0.229*	0.219
11. IT活用能力	日本	0.105	0.273**	0.239**	0.212*	0.213*	0.156	0.289**	0.171*	0.168*	0.152	0.164	0.245**
	インドネシア	0.161	0.213*	0.083	0.109	0.109	0.115	0.104	0.125	0.05	0.186	0.044	-0.086
12. コミュニケーション能力	日本	0.186*	0.358**	0.328**	0.116	0.209*	0.178	0.325**	0.248**	0.158	0.176*	0.252**	0.136
	インドネシア	0.274**	0.277**	0.17	0.171	0.232*	0.191	-0.04	0.191	0.183	0.35**	0.264*	0.135
13. 英語運用能力	日本	0.365**	0.297**	0.073	0.235**	0.163	0.106	0.257*	0.218**	0.154	0.107	0.153	0.199*
	インドネシア	0.202	0.22*	0.132	0.019	0.123	0.04	0.037	0.176	0.025	0.153	-0.047	-0.105
14. 日本語運用能力	日本	-0.240**	0.021	0.049	0.009	-0.184*	0.084	0.008	-0.119	-0.067	-0.036	0.141	0.243**
	インドネシア	0.167	0.133	0.022	0.159	-0.11	-0.021	-0.094	0.195	0.048	0.103	-0.04	-0.083
15. 国際性	日本	0.333**	0.351**	0.298**	0.238**	0.064	0.158	0.291**	0.223**	0.357**	0.304**	0.471**	0.366**
	インドネシア	0.11	0.336**	0.322**	0.265*	0.229	0.272	0.261	0.137	0.109	0.157	0.172	0.213
16. リーダーシップ	日本	0.303**	0.260**	0.278**	0.360**	0.102	0.249*	0.333**	0.096	0.098	0.198*	0.202*	0.296**
	インドネシア	0.252*	0.148	0.008	0.069	0.118	0.174	-0.062	0.243*	0.173	0.307**	0.136	0.037
17. 対人交渉・調整力	日本	0.362**	0.281**	0.288**	0.304**	0.124	0.210*	0.206	0.065	0.037	0.180*	0.258**	0.194*

		英語学習	日本語学習	その他言語学習	IT学習	日本人学生との交流	インドネシア留学生、 インドネシアの学生との交流	他国留学生との交流	住民との交流	日常生活	旅行
(知識)											
1. 幅広い教養	日本	0.210*	0.022		0.338**	0.139	0.355**	0.271**	0.266**	0.274**	0.319**
	インドネシア	0.017		0.192	-0.018		0.132	0.055	0.126		
2. インドネシアの開発等	日本	0.318**	-0.048		0.071	0.25**	0.304**	0.273**	0.188*	0.201	0.221**
	インドネシア	0.063		-0.091	0.031		0.137	0.041	-0.086		
3. 職務関連分野の基礎的知識・理論・方法	日本	0.123	0.221**		-0.009	0.277**	0.161	0.218**	0.241**	0.166*	0.083
	インドネシア	0.079		0.38**	0.198		0.038	0.172	-0.016		
4. 職務関連分野の最新の知識・理論・方法	日本	0.17*	0.164		0.067	0.298**	0.276**	0.286**	0.188*	0.061	0.075
	インドネシア	0.230*		0.441**	0.25*		0.109	0.079	-0.028		
5. 職務関連分野の実務的な知識	日本	0.176*	0.246**		0.138	0.338**	0.132	0.263**	0.268**	0.143	0.161
	インドネシア	0.387**		0.342*	0.136		0.183	-0.011	-0.113		

(技能・思考力)											
6. 科学的な調査・分析能力	日本	0.062	0.092		0.156	0.205*	0.164	0.14	0.129	0.053	0.115
	インドネシア	0.058		0.167	0.038		-0.071	0.024	-0.038		
7. 論理的な思考能力	日本	0.226*	0.056		0.231**	0.319**	0.275**	0.391**	0.239**	0.29**	0.271**
	インドネシア	0.03		0.289	0.081		-0.036	-0.088	0.061		
8. 情報収集・処理能力	日本	0.081	0.016		0.378**	0.102	0.115	0.21*	0.126	0.171*	0.154
	インドネシア	0.071		0.308	0.216*		0.075	0.112	-0.05		
9. 問題解決能力	日本	0.240**	0.082		0.202*	0.379**	0.348**	0.393**	0.275**	0.364**	0.304**
	インドネシア	0.342**		0.172	0.185		0.017	0.046	0.007		
10. 新たな発想や構想をする力	日本	0.135	0.12		0.125	0.233**	0.247**	0.213*	0.16	0.276**	0.188*
	インドネシア	0.188		0.269	0.133		0.048	0.09	0.054		
11. IT活用能力	日本	0.032	-0.004		0.533**	0.11	0.11	0.135	0.163	0.146	0.184*
	インドネシア	0.179		0.283	0.169		0.162	0.193	0.174		
12. コミュニケーション能力	日本	0.304**	0.115		0.274**	0.431**	0.288**	0.258**	0.148	0.119	0.06
	インドネシア	0.105		-0.062	0.052		0.224*	0.05	0.175		
13. 英語運用能力	日本	0.574**	0.089		0.353**	0.255**	0.286**	0.326**	0.097	0.15	0.24**
	インドネシア	0.408**		0.317*	0.22*		0.027	0.218	0.149		
14. 日本語運用能力	日本	-0.285**	0.303**		-0.14	0.044	-0.073	-0.115	0.015	0.096	-0.127
	インドネシア	0.226		0.351*	0.03		0.05	0.146	0.135		
15. 国際性	日本	0.134	0.131		0.218	0.261**	0.339**	0.346**	0.211*	0.255**	0.24**
	インドネシア	0.375**		0.428*	0.18		0.119	0.288*	0.227		
16. リーダーシップ	日本	0.241**	0.113		0.244**	0.349**	0.401**	0.331**	0.306**	0.201*	0.169*
	インドネシア	0.137		0.154	0.049		0.059	-0.156	0.179		
17. 対人交渉・調整力	日本	0.342**	0.089		0.164	0.447**	0.425**	0.378**	0.275**	0.142	0.116

	インドネシア	0.203	0.282**	0.195	0.185	0.128	0.255*	-0.012	0.184	0.327**	0.347**	0.33**	0.305**
		講義	ゼミナール	実験・実習	インターンシップ	個別指導	研究活動への参加・補佐	授業補助	資料検索・収集	文献解読	レポート・論文	学内勉強会	学外勉強会
(技能・思考力) <つづき>													
18. 決断力	日本	0.393**	0.321**	0.322**	0.320**	0.204*	0.237*	0.313**	0.137	0.187*	0.276**	0.172*	0.250**
	インドネシア	0.167	0.265*	0.226*	0.175	0.143	0.19	0.08	0.186	0.252*	0.204	0.263*	0.156
19. 学習能力	日本	0.423**	0.159	0.304**	0.190*	0.184*	0.189	0.146	0.091	0.218**	0.286**	0.264**	0.250**
	インドネシア	0.12	0.043	0.036	-0.139	0.072	0.09	0.109	0.022	0.064	0.111	0.019	-0.056
20. 自己評価能力	日本	0.334**	0.199*	0.263**	0.276**	0.11	0.279**	0.231*	0.078	0.136	0.290**	0.329**	0.385**
	インドネシア	0.237*	0.27*	0.164	0.166	0.254*	0.241	0.26	0.238*	0.282**	0.34**	0.23*	0.187
21. 時間管理能力	日本	0.395**	0.268**	0.318**	0.257**	0.086	0.204*	0.163	0.096	0.189*	0.308**	0.331**	0.305**
	インドネシア	0.13	0.162	0.155	-0.033	0.314**	-0.007	0.147	0.26*	0.183	0.222*	-0.046	-0.094
22. 長期展望	日本	0.368**	0.352**	0.306**	0.207*	0.153	0.173	0.233*	0.204*	0.318**	0.334**	0.470**	0.428**
	インドネシア	0.061	0.065	0.01	0.029	0.065	0.036	-0.048	0.228*	0.176	0.228*	0.165	0.104

(態度)													
23. 倫理性	日本	0.212*	0.084	0.111	0.202*	0.071	0.184	0.250*	0.117	0.214*	0.147	0.182*	0.215*
	インドネシア	0.101	0.182	0.193	-0.051	0.041	0.097	0.151	0.236*	0.091	0.117	-0.027	-0.064
24. 規律性	日本	0.252**	0.188*	0.211*	0.220*	0.063	0.276**	0.283**	0.085	0.180*	0.198*	0.167*	0.118
	インドネシア	0.116	0.099	0.095	0.046	0.105	-0.045	0.005	0.14	0.132	0.101	-0.155	-0.17
25. 寛容性	日本	0.161	0.085	0.168	0.132	0.124	0.106	0.141	0.148	0.254**	0.154	0.136	0.171*
	インドネシア	-0.035	0.218*	0.21*	0.037	0.209*	0.125	0.112	0.276*	0.134	0.089	0.026	0.001
26. 責任感	日本	0.329**	0.246**	0.271**	0.299**	0.109	0.357**	0.328**	0.08	0.177*	0.284**	0.194*	0.227**
	インドネシア	0.13	0.13	0.037	-0.019	0.145	-0.012	0.054	0.226*	0.198	0.204	0.166	0.072
27. 柔軟性	日本	0.238**	0.061	0.178*	0.196*	0.104	0.220*	0.237*	0.197*	0.178*	0.178*	0.037	0.142
	インドネシア	0.192	0.168	0.164	-0.039	0.087	0.167	0.189	0.127	0.204	0.152	0.126	0.087
28. 奉仕精神・献身	日本	0.359**	0.235**	0.253**	0.256**	0.056	0.285**	0.267*	0.113	0.119	0.226**	0.117	0.203*
	インドネシア	0.026	0.204	0.089	0.06	0.19	0.009	0.12	0.144	0.064	0.045	-0.02	-0.01
29. 自信を持って仕事に取り組む態度	日本	0.346**	0.253**	0.231**	0.322**	0.170*	0.357**	0.339**	0.005	0.15	0.223**	0.288**	0.247**
	インドネシア	0.259*	0.088	0.096	0.047	0.058	0.191	-0.018	0.254*	0.217*	0.152	0.032	-0.044
30. チャレンジ精神	日本	0.321**	0.196*	0.180*	0.210*	0.098	0.141	0.176	0.043	0.211*	0.308**	0.225**	0.108
	インドネシア	0.238*	0.229*	0.091	0.185	0.27**	0.195	0.15	0.192	0.33**	0.322**	0.194	0.073
31. 積極性	日本	0.388**	0.345**	0.343**	0.188*	0.123	0.259**	0.216	0.068	0.236**	0.326**	0.434**	0.319**
	インドネシア	0.109	0.215*	0.136	0.167	0.129	0.115	-0.024	0.126	0.25*	0.346**	0.182	0.101
32. 目標達成志向	日本	0.263**	0.202*	0.368**	0.353**	0.184*	0.186	0.296**	0.119	0.229*	0.184*	0.261**	0.232**
	インドネシア	0.048	0.216*	0.041	0.139	0.255*	0.045	-0.008	0.114	0.163	0.258*	0.25*	0.15
33. 好奇心	日本	0.274**	0.208*	0.383**	0.346**	0.242**	0.352**	0.297**	0.129	0.269**	0.314**	0.241**	0.298**
	インドネシア	0.117	0.257*	0.296**	0.257*	0.14	0.31*	0.037	0.226*	0.293**	0.26*	0.193	0.151
34. 合意志向	日本	0.200*	0.138	0.218*	0.232**	0.195*	0.310**	0.302**	0.103	0.214*	0.163	0.149	0.254**
	インドネシア	0.165	0.241*	0.246*	0.243*	0.226*	0.255*	0.085	0.102	0.192	0.296*	0.04	0.046

	インドネシア	0.199		0.332*	0.113		0.195	-0.003	0.151		
		英語学習	日本語学習	その他言語学習	IT学習	日本人学生との交流	インドネシア留学生、 インドネシアの学生との交流	他留学生との交流	住民との交流	日常生活	旅行
(技能・思考力) <つづき>											
18. 決断力	日本	0.255**	0.084		0.17*	0.339**	0.295**	0.383**	0.28**	0.278**	0.186*
	インドネシア	0.208		0.176	0.201		0.053	-0.119	0.013		
19. 学習能力	日本	0.16	-0.001		0.06	0.105	0.258**	0.244**	0.256**	0.241**	0.272**
	インドネシア	0.044		0.048	0.138		0.132	-0.147	0.003		
20. 自己評価能力	日本	0.056	0.132		0.063	0.21	0.363**	0.249**	0.415**	0.353**	0.293**
	インドネシア	0.213		0.198	0.221*		0.231*	0.003	0.227*		
21. 時間管理能力	日本	0.144	0.126		0.103	0.196*	0.328**	0.278**	0.31**	0.396**	0.232**
	インドネシア	0.164		0.411**	0.19		0.145	0.152	0.316**		
22. 長期展望	日本	0.149	0.124		0.261**	0.208*	0.303**	0.209*	0.14	0.255**	0.274**
	インドネシア	0.025		0.228	0.18		0.066	-0.111	-0.064		

(態度)											
23. 倫理性	日本	0.117	0.083		0.115	0.243**	0.226**	0.27**	0.277**	0.48**	0.32**
	インドネシア	0.195		0.124	0.186		-0.024	-0.053	0.126		
24. 規律性	日本	0.07	0.149		0.026	0.262**	0.201*	0.285**	0.327**	0.467**	0.158
	インドネシア	0.193		0.377*	0.177		0.14	0.172	0.236*		
25. 寛容性	日本	0.109	0.055		0.09	0.065	0.119	0.195*	0.179*	0.35**	0.178*
	インドネシア	0.167		0.341*	0.39**		0.078	0.054	0.277*		
26. 責任感	日本	0.166	0.099		0.098	0.284**	0.301**	0.327**	0.307**	0.46**	0.185*
	インドネシア	0.06		0.173	0.239*		0.199	-0.011	0.068		
27. 柔軟性	日本	0.251**	0.043		0.1	0.173*	0.176*	0.209*	0.174*	0.086	0.069
	インドネシア	0.162		0.146	0.172		0.08	0.03	0.046		
28. 奉仕精神・献身	日本	0.158	0.141		0.093	0.147	0.185*	0.147	0.2*	0.351**	0.252**
	インドネシア	0.186		0.314*	0.196		0.182	0.062	0.279*		
29. 自信を持って仕事に取り組む態度	日本	0.327**	0.02		0.151	0.267**	0.302**	0.346**	0.254**	0.294**	0.266**
	インドネシア	0.163		0.129	0.081		0.121	-0.006	0.108		
30. チャレンジ精神	日本	0.034	0.041		0.072	0.221**	0.218**	0.243**	0.168	0.203*	0.238**
	インドネシア	0.208		0.007	0.112		0.279**	0.034	0.075		
31. 積極性	日本	0.142	0.157		0.167	0.274**	0.346**	0.317**	0.282**	0.325**	0.267**
	インドネシア	0.194		0.269	0.165		0.259*	0	0.057		
32. 目標達成志向	日本	0.112	0.202*		0.84	0.23**	0.225**	0.248**	0.222**	0.443**	0.275**
	インドネシア	0.115		0.095	0.154		0.138	-0.063	0.068		
33. 好奇心	日本	0.124	-0.014		0.092	0.171*	0.204*	0.239**	0.188*	0.24**	0.312**
	インドネシア	0.19		0.208	0.21		0.119	-0.029	0.048		
34. 合意志向	日本	0.124	0.161		0.059	0.175*	0.297**	0.249**	0.205*	0.309**	0.181*
	インドネシア	0.366**		0.096	0.322**		0.095	0.008	0.17		

		講義	ゼミナール	実験・実習	インターンシップ	個別指導	研究活動への参加・補佐	授業補助	資料検索・収集	文献解読	レポート・論文	学内勉強会	学外勉強会
〈価値〉													
35. グローバル・国際的基準重視	日本	0.234**	0.091	0.196*	0.251**	0.095	0.124	0.272*	0.153	0.257**	0.202*	0.213*	0.256**
	インドネシア	0.027	0.166	0.212*	0.138	0.016	0.28*	0.137	0.022	0.113	0.134	0.094	0.154
36. インドネシアの国益重視	日本	0.321**	0.156	0.163	0.271**	0.085	0.158	0.262*	0.156	0.234*	0.135	0.167*	0.212*
	インドネシア	0.138	0.119	0.179	0.191	0.117	0.41**	0.25	0.038	0.156	0.192	0.04	-0.024
37. 地方重視	日本	0.154	0.229**	0.138	0.085	0.083	0.038	0.147	0.138	0.091	0.022	0.01	0.009
	インドネシア	0.003	0.214*	0.16	0.047	0.008	0.372**	0.142	0.032	0.147	0.171	-0.01	0.138
38. 愛国心	日本	0.286**	0.179*	0.153	0.242**	0.12	0.15	0.114	-0.006	0.07	0.085	0.109	0.132
	インドネシア	0.11	0.208*	0.099	0.142	0.274*	0.261*	0.264	0.008	0.114	0.099	0.09	0.113
39. 宗教心	日本	0.047	0.006	0.057	0.083	-0.008	0.001	-0.052	0.047	0.022	0.084	0.158	0.197*
	インドネシア	0.195	0.116	0.021	0.089	0.203	0.039	0.088	0.125	0.048	0.229*	0.01	-0.057
40. アスピレーション	日本	0.265**	0.265**	0.278**	0.261**	0.166*	0.179	0.194	0.111	0.311**	0.296**	0.334**	0.275**
	インドネシア	0.092	0.126	0.022	0.119	0.089	0.093	0.045	0.135	0.11	0.197	-0.025	-0.12
41. 仕事中心主義	日本	0.439**	0.298**	0.353**	0.301**	0.064	0.385**	0.225*	0.054	0.125	0.277**	0.306**	0.206*
	インドネシア	0.134	0.099	0.095	0.045	0.166	0.108	0.086	0.032	0.125	0.194	-0.015	-0.008
42. 家族中心主義	日本	0.106	0.063	0.107	0.254**	0.055	0.158	0.269*	0.01	0.121	0.163	0.043	0.147
	インドネシア	0.114	0.086	0.041	0.059	0.056	0.041	0.014	0.358**	0.171	0.114	-0.021	0.044

		英語学習	日本語学習	その他言語学習	IT学習	日本人学生との交流	インドネシア留学生、 インドネシアの学生との交流	他留学生との交流	住民との交流	日常生活	旅行
(価値)											
35. グローバル・国際的基準重視	日本	0.085	0.02		0.083	0.076	0.102	0.144	0.073	0.291**	0.211*
	インドネシア	0.252*		0.312	0.156		0.055	0.152	-0.005		
36. インドネシアの国益重視	日本	0.219*	0.04		0.209*	0.244**	0.347**	0.346**	0.223**	0.241**	0.291**
	インドネシア	0.225*		0.223	0.135		0.043	-0.012	0.079		
37. 地方重視	日本	0.194*	0.141		0.04	0.253**	0.154	0.156	0.222**	0.172*	0.191
	インドネシア	0.264*		0.239	0.211		0.024	0.134	0.051		
38. 愛国心	日本	0.308**	0.109		0.173*	0.164	0.289**	0.31**	0.318**	0.286**	<u>0.401**</u>
	インドネシア	0.118		0.335*	0.017		0.071	0.033	0.23*		
39. 宗教心	日本	0.054	-0.008		0.035	0.123	0.226**	0.089	0.28**	0.237**	0.22*
	インドネシア	0.202		0.09	0.11		0.021	0.126	0.329**		
40. アスピレーション	日本	0.169	0.248**		0.242*	0.360**	0.29**	0.298**	0.282**	<u>0.402**</u>	0.379**
	インドネシア	0.224*		0.168	0.268*		0.035	0.035	0.004		
41. 仕事中心主義	日本	0.116	0.212*		0.021	0.281**	0.277**	0.3**	0.31**	<u>0.402**</u>	0.293**
	インドネシア	0.248*		0.18	0.198		0.063	0.018	0.142		
42. 家族中心主義	日本	0.141	0.015		0.139	0.073	0.224**	0.188*	0.256**	0.249**	0.261**
	インドネシア	0.264*		0.358*	0.295**		0.139	0.067	0.326**		

(注)*は5%の水準で、**は1%の水準で有意なことを示す。